IECMS

Institute of Education,
Research and Regional Cooperation
for Crisis Management Shikoku

香川大学
四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構

報告 2020

序文

香川大学 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 機構長
吉田　秀典

2020 年 7 月、熊本県を中心に九州や中部地方など日本各地が集中豪雨（令和 2 年 7 月豪雨）に見舞われたことはまだ記憶に新しいことと存じますが、2021 年 7 月にも、静岡県熱海市伊豆山で大規模な土石流が発生して複数の家屋が流され、悲しいことですが、多くの人命が失われました。線状降水帯の発生や長期にわたる降雨など、以前と比べ明らかに気象が変化しており、これまでの学問体系だけで判断するのではなく、学術分野の面でも、新しい知見や情報を更新していく必要性を感じております。同時に、社会基盤の脆弱性、人命を守るための避難の在り方、復旧・復興の難しさについても、改めて痛感しております。

また、一昨年の 11 月に中国・武漢を端として発生した新型コロナウイルスは、瞬く間に全世界に拡散し、より感染力の強い変異株へと形を変えるに至っております。わが国でも、依然として収束することなく多数の感染者と死者を出すに至っております。徐々にワクチン接種は進んで来ているものの、行動形態が複雑な若年層への接種が少ないことに起因して、感染者数が中々減らないという状況が続いております。今後、南海トラフの巨大地震をはじめとした自然災害、新型コロナウイルスのような疫病、さらには人的な災害が同時に生じる「複合災害」に対しても、的確かつ最善な危機管理が実践できる人材育成や先駆的かつ大胆な研究開発が求められると考えます。

香川大学の「四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構」では、「危機管理先端教育研究センター」と「地域強靭化研究センター」という 2 つのセンターを擁し、ここでは、先端教育プログラム開発やそれを活用した高度な人材育成のほか、最先端のレジリエンスサイエンス（減災科学）研究を実践するなど、様々な角度から危機管理に関する様々なニーズに対応しています。令和 2 年度、複合災害に備えるべく、これまでの 7 つの教育研究部門（先端教育プログラム開発部門、人材教育部門、減災基礎研究部門、地域連携部門、減災応用研究部門、大学間連携部門、国際連携部門）に加え「災害医療・健康危機管理部門」を追加したほか、独自に研究助成ファンドを設け、文理融合研究を励行しております。

このように、「四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構」では、人材輩出と研究開発成果の普及だけでなく、四国の災害対応拠点である香川県における防災・減災教育研究拠点としての機能強化を図っていく所存ですので、今後とも、「四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構」の活動に対して、ご支援ならびにご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(令和 3 年 7 月執筆)

副機構長、危機管理先端教育研究センター長、創造工学部教授
長谷川 修一

令和 2 年 4 月より四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構　副機構長ならびに危機管理先端教育研究センター長を拝命いたしました長谷川 修一です。本研究センターは大規模化・広域化する自然災害、多様化・複雑化する人為災害に対して、災害の規模・種類を問わず一つの組織行動原則（オールハザードアプローチ）のもとに対応するため、関連する基礎研究の推進と拠点形成、並びに適切な判断・意思決定のもとに迅速に対処できるレジリエンスサイエンスリーダーの育成を目指しています。具体的には、以下の研究課題に取り組みます。

1）四国国立 5 大学連携による危機管理教育研究の推進と拠点形成

四国国立 5 大学が連携して平成 26 年 4 月に「四国 5 大学連携防災・減災教育研究協議会」を設置し、四国地域における巨大災害に対する防災・減災の研究、人材育成、防災意識の啓発及び復興デザイン等の研究に組織的に取組んでいます。また四国 4 県の防災担当部署と 5 大学が連携した「四国官学連携防災・減災協議会」を平成 30 年 10 月に設置し、行政機関の実効性と大学の研究教育力を融合した連携事業の展開により四国地域の強靭化を推進しています。

2）四国防災・危機管理プログラムの推進

徳島大学との連携、香川県、徳島県の協力のもとに、平成 24 年 10 月に「四国防災共同教育センター」を香川大学内に設置し、平成 25 年 4 月から受講生を受入れて「四国防災・危機管理特別プログラム」を開講しました。本プログラムは文部科学省の平成 24 年度大学間連携共同教育推進事業に採択され平成 28 年度まで 5 年間実施しました。平成 29 年度からは名称を「四国防災・危機管理プログラム」に変更し、引続き香川大学と徳島大学が連携して実施しています。令和 3 年 3 月末時点で 196 名のプログラム修了生に「災害・危機対応マネージャー」の資格を授与しています。今後は、国内、国外への普及を目指しています。

3）レジリエンスエンジニアリングに基づく教育訓練システムの開発と実践

四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構では、想定を超える大規模広域災害に対しても、適切な意思決定と迅速な判断・行動ができる実践力を備えた人材育成を目的に、平成 25 年 4 月に「災害状況再現・対応能力訓練システム」を開発しました。このシステムでは、VR により想定外の災害状況を具現化し、訓練体験者がその危機的状況の中で状況判断し、意思決定を行い、行動するという一連の危機管理対応訓練が可能です。学校防災コース、行政・企業防災コース、応急手当コースを基本に訓練を実施しており、これまで中四国を中心に約 3,300 名の方が訓練を体験されています。基礎的訓練から応用訓練まで体験者個人やグループの要望に応じて訓練が可能なシステムになっています。現在は主として地震災害が対象ですが、今後は風水害や土砂災害等も対象とした訓練システムの開発を目指しています。

4）オールハザードアプローチに基づく危機管理教育プログラムの開発と拠点形成

多様化・大規模化・広域化する自然災害に対しては、対処する広範な関係組織や部署を統合し調整することが必要になります。そのためには、通常の職務や管轄、行政区等の境界を超えてすべての当局、利害関係者を一時的に単一の枠組みの中に統合する「多当局協働システム」が有用です。このシステムを効果的に機能させるためには、危機管理者にはコミュニケーションなどの社会的技能や、状況認識などの認知技能、リーダーシップや問題解決能力の管理者技能の習得が必要です。四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構では、公共分野における組織間学習やリーダーシップ教育などの非技術技能教育を習得できるプログラムの開発とそれを活用した実践教育として、「四国防災・危機管理プログラム」を位置づけて推進しています。現在、新型コロナ感染症が拡大しています。今後はコロナ禍における複合災害も視野に入れて、危機管理教育プログラムの開発と拠点形成を推進する所存です。

副機構長、地域強靭化研究センター長、特任教授
金田　義行

四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構　副機構長ならびに地域強靭化研究センター長の金田義行です。四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構は、発生が危惧される南海トラフ巨大地震や熊本地震のような内陸地震に備えるための減災科学研究を推進し、研究拠点となることを目指しています。また、南海トラフ巨大地震のような国難級の災害と近年頻発する広域・甚大な風水害などとの複合災害への対応、さらには新型コロナウイルス災禍において自然災害が発生した場合の対応など新たな複合災害の対応についても検討を進めなければなりません。そのためには人材育成が必要不可欠です。具体的には、以下の研究課題に取り組みます。

1）レジリエンスサイエンス等減災応用研究推進と研究成果を活用した地域支援

レジリエントな社会形成には、想定外の事態に対して地域社会の継続を目標に、危機を分析・評価し、適切にマネジメント（計画・実践）できる高度な対応能力（ハイコンピテンシー、レジリエンス能力）を有する人材が必要です。四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構では、地域コミュニティや、企業、行政等の地域強靭化に資する活動支援を通じて、最新のレジリエンスサイエンス研究成果を広く社会にご活用いただけるよう、レジリエンスサイエンスリーダーの育成や減災応用研究を推進いたします。また、災害情報の利活用に関する研究も行います。

2）香川地域継続検討協議会の運営・推進

巨大地震による被害は、東日本大震災を踏まえると、個々の組織に留まらず広域的な災害が発生し、地域が機能不全に陥る恐れがあるため、大規模かつ広域的な災害発生を想定した地域継続計画（District Continuity Plan：DCP）の策定・運用が必要です。香川県は、南海トラフ地震が発生した場合の四国の防災拠点としての役割が期待されていることから、早急に DCP を策定することが必要です。そこで、香川地域継続検討協議会は、DCP の策定はもちろん、その実効性を担保するために、各機関が既に策定している事業継続計画（Business Continuity Plan：BCP）についても DCP の視点からの見直し・改善を図るとともに、BCP の策定が遅れている機関･組織の BCP 策定支援を行い、四国地震防災基本戦略の推進を図ることを活動目的としています。また、南海トラフ地震対応さらに発災後の地域強靭化計画の立案支援にも積極的に取り組みます。

3）香川地域継続首長会議の運営・推進

南海トラフ巨大地震のような広域、甚大な災害では四国地域全体におよび、市町単独での対応が困難であることは東日本大震災の被災状況から明らかです。従って､香川県下の 17 市町の行政、企業、学校、病院等個々の組織が BCP を策定するとともに、各市町の連携、県単位での DCP の策定及び実践が必要となります。その具現化に向け、香川地域継続首長会議を設置し、香川県内の首長および関係者が相互連携することで香川地域の地域継続力の向上を図り、四国の緊急災害対策本部機能を発揮することを目指しています。また、南海トラフ巨大地震に関連した「臨時情報」対応も重要課題として取り組みます。

4）国際リスクマネジメントセミナーの開設・運営と国際連携拠点形成

自然災害に国境はありません。環太平洋域ではチリやペルー、ニュージーランドに代表される地震国、アジア圏では、インドネシア、台湾、ネパール、トルコといった地震国などで甚大な被害が発生しています。その被害軽減のためには国内の減災対策やリスクマネジメントシステムをベースにした、国際的な視点でのリスクマネジメントの普及が不可欠です。具体的には、海外の若手研究者や行政等に関わる方々を対象にリスクマネジメントに関わる知識習得や対策法を目的とした国際リスクマネジメント講座を開設します。この講座をコアとした国際連携拠点を形成し、人材交流・人材育成とリスクマネジメントの国際的な社会実装を目指します。尚、講座の開設・運用に関しては、四国の各大学と連携した四国減災研究連携を推進します。

◆四国危機管理教育･研究･地域連携推進機構報告 目次◆

序文

四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構長
危機管理先端教育研究センター長、地域強靭化研究センター長

Ⅰ.四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構紹介 …… 1

Ⅱ.2020 年度 活動状況

1.研究スタッフ …… 3

2.危機管理先端教育研究事業の実施 …… 4

(1) 地域防災リーダー養成
(2) 機能別消防団の運営
(3) メンタルヘルスアップリーダー養成
(4)「四国防災･危機管理プログラム」実施による防災・危機管理専門家養成
(5) 学校防災アドバイザー派遣事業
(6) 想定外災害再現・教育訓練実施

3.地域強靭化研究・地域貢献事業の実施 ……14

(1) 香川地域継続検討協議会の運営
(2) 香川地域継続首長会議の運営
(3) 地域影響分析（DIA）支援システムの開発・運用
(4) 地震･津波観測監視システム（DONET）情報の利活用
(5) まちなかカフェ開催による地域防災力向上
(6) 令和 2 年度小豆島町危機管理等研修プログラム

4.四国国立５大学連携による危機管理教育研究推進と拠点形成 ……20

(1) 四国５大学連携防災・減災教育研究協議会の開催
(2) 四国官学連携防災・減災協議会の開催

5.危機管理分野の国際学術連携推進と拠点形成 ……21

(1) 国内拠点機能の強化
(2) 国際拠点機能の強化

6.減災に関する研究の推進（減災科学研究部門） ……23

7.シンポジウム､セミナー等の開催 ……24

(1) 子どものためのＰＦＡ研修
(2) 香川大学四国危機管理教育･研究･地域連携推進機構セミナー
～私に必要な「避難」とは？～
(3) 海洋科学の未来と減災科学シンポジウム
(4) 香川大学 ジオパーク×防災 シンポジウム
(5) 高校生高知減災エンス塾
(6) 2020 年度香川大学 危機管理シンポジウム
(7) 第 5 回「地震国における減災研究に関する国際シンポジウム」
(8)「四国人財育成塾」立ち上げのためのシンポジウム
(9) レジリエンスサイエンスシンポジウム
(10) 香川大学四国危機管理教育･研究･地域連携推進機構セミナー
～新型コロナウイルスの危機管理とリスクコミュニケーション～

(11)「サヌカイトフォーンによるレクイエム」と「巽好幸先生が語るサヌカイト」
(12) 香川地域継続検討協議会設立 8 周年記念シンポジウム
(13) 平原和朗　地震学講座（後期）
～地震学の基礎（地震がわかる）～

Ⅲ.巻末資料（2020 年度)

1.研究員実績（社会貢献活動、講演･講義、研究･解説･論文、受賞学術賞） …… 37
2.運営、管理 …… 47
3.規定 …… 48

Ⅰ．四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構紹介

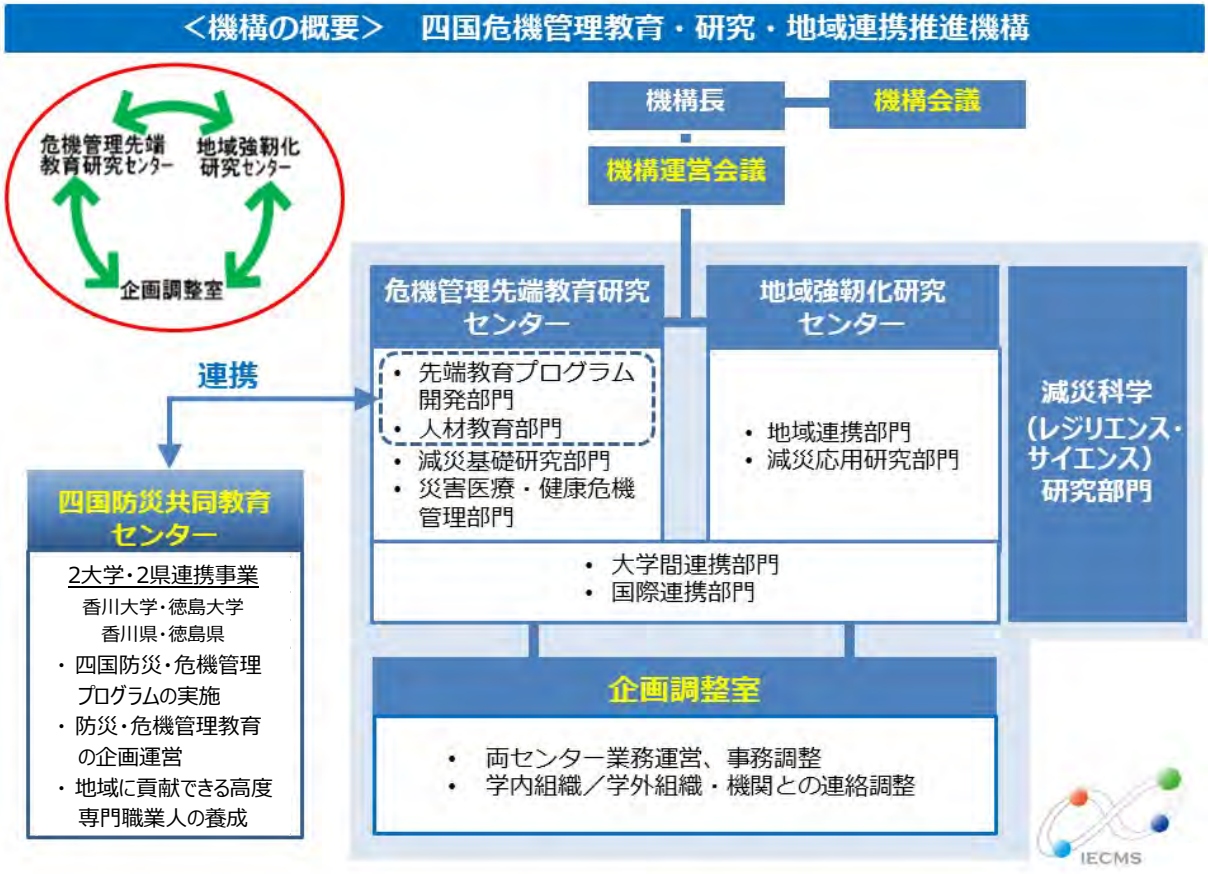
香川大学では平成 20 年 4 月に「危機管理研究センター」、平成 24 年 10 月に「四国防災共同教育センター」（徳島大学との共同設置）、平成 25 年 1 月に「防災教育センター」を設置し、香川県、四国の防災･危機管理教育研究拠点の役割を担ってまいりました。しかし、南海トラフ地震等巨大化・広域化する自然災害や多様化・グローバル化する危機に対して、さらなる拠点機能強化を図るため、「危機管理研究センター」を再編整備する形で、平成 28 年 4 月に「危機管理先端教育研究センター」と「地域強靭化研究センター」の 2 つのセンターで構成される「四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構」を創設しました。

「危機管理先端教育研究センター」では、地質工学、地盤災害、地域防災の研究や教育に長年携わっている長谷川修一教授をセンター長として、「先端教育プログラム開発部門」「人材教育部門」「減災基礎研究部門」「大学間連携部門」「国際連携部門」の５つの部門を設け、グローバルに活躍できるレジリエンスサイエンスリーダーの養成などを行います。

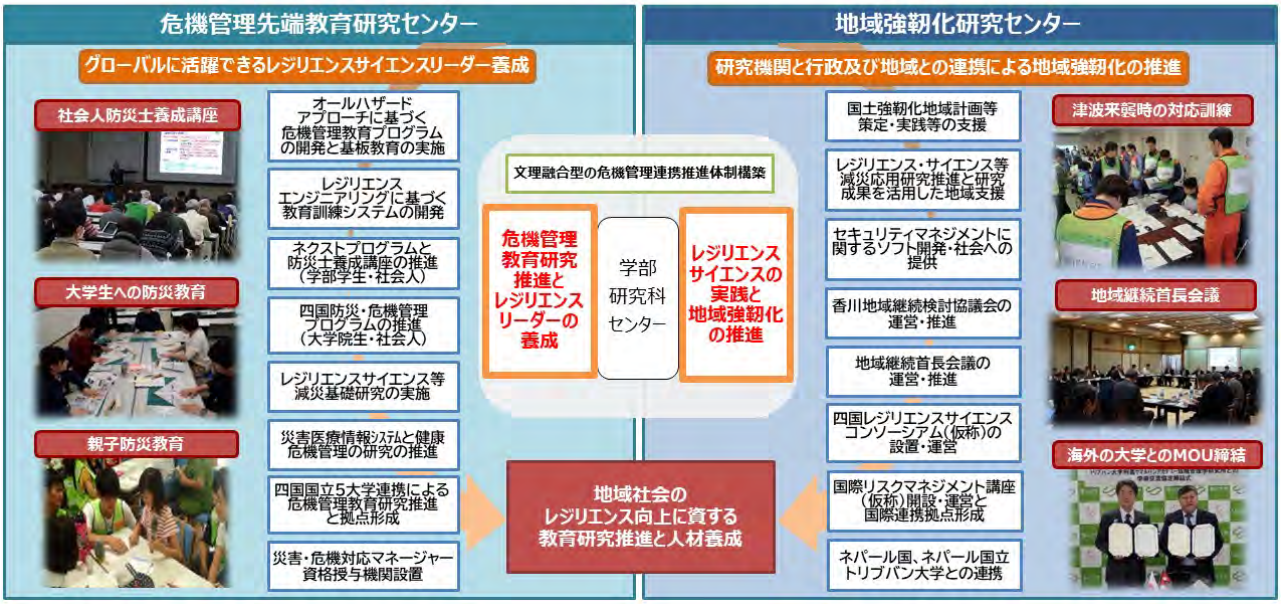
「地域強靭化研究センター」では、レジリエンスサイエンスの研究で国内外の多くの研究プロジェクトを主導してこられた金田義行特任教授をセンター長として、「地域連携部門」「減災応用研究部門」「大学間連携部門」「国際連携部門」の４つの部門を設け、地震・津波観測監視システム（DONET）の利活用のための研究や、災害に対し強くしなやかな地域社会の構築（地域強靭化）を行います。

また、平成 29 年度には地震・津波などの広域自然災害における減災科学の研究の為、専任教員２名（海外１名、国内１名）を招聘して、「減災科学（レジリエンス･サイエンス）研究部門」を設置し、四国地域を中心とした国内全体を対象に、地震応答解析や津波シミュレーションをはじめリアルタイム情報やＡＩ、可視化技術を活用した減災科学研究を進めております。

今後も各々の分野から、防災教育研究活動に邁進したいと考えております。



＜機構の概要＞　四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構



＜機構の概要＞四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構
危機管理教育研究機能強化と地域強靭化研究拠点の形成

目的

- ①防災・減災・危機管理の「教育研究並びに地域貢献拠点（知の拠点）機能強化」
- ②「四国、全国、国際連携拠点機能充実」
- ③香川県下の「行政機関、民間企業、地域コミュニティとの連携」

期待成果

学術的成果

- 「四国版防災・危機管理統一教育プログラム開発による**防災・危機管理学の学問体系の構築**」
- 「レジリエンスサイエンス/エンジニアリングに基づく防災・減災技術開発及びレジリエンス4能力の学術的研究による**実践力を重視した新たな危機管理教育研究分野の開拓**」

社会的成果

- 「防災・危機管理専門家の継続的養成による**地域防災力の向上**」
- 「南海トラフ巨大地震、首都直下地震の**減災効果の向上**、地域組織の**事前復旧・復興研究の推進**」

学内的成果

- 「地域の危機（少子高齢化、コミュニティ崩壊、医療崩壊、環境破壊、自然災害、心のケア等）に対する**文理融合型の全学連携体制構築**」
- 「四国、全国、アジアの**防災・減災・危機管理の教育研究・地域貢献の拠点大学の機能強化**」

課題

- 「"レジリエンスサイエンス/エンジニアリング"の学術体系化と社会実装」，「既存学術分野との連携・協働体制構築」のための **学内組織体制・拠点施設の整備**
- 「巨大災害に対する連携拠点構築」，「危機管理の知の拠点化と高度な教育・研究推進」のための **オール四国連携組織及びプラットフォームの構築**
- 「巨大化，多様化，広域化，グローバル化する危機事象」に対して，地域社会が適切かつ迅速に対応するための **学術拠点機能の充実・強化**

Ⅱ.2020 年度 活動状況

1.研究スタッフ

専任教職員

機構長	吉　田　秀　典	副学長(情報･危機管理･学術･特命担当)
顧　問	白　木　　渡	香川大学名誉教授
危機管理先端教育研究ｾﾝﾀｰ	長谷川　修一	副機構長・センター長 創造工学部・教授
	松　本　秀　應	副センター長・特命教授
	萩　池　昌　信	特命教授
	藤　目　浩　二	客員教授
	豊　島　明日香	技術補佐員
	久　本　浩　二	技術補佐員
	落　合　陽　子	技術補佐員
	近　藤　あす香	事務補佐員
地域強靱化研究ｾﾝﾀｰ	金　田　義　行	副機構長・センター長・特任教授 学長特別補佐
	藤　澤　一　仁	副センター長・特命教授
	磯　打　千雅子	特命准教授
	高　橋　真　里	技術補佐員
	藤　川　幸　子	事務補佐員
企画調整室	藤　澤　一　仁	室長
	谷　　綾	事務補佐員
減災科学(ﾚｼﾞﾘｴﾝｽ･ｻｲｴﾝｽ)研究部門	OZER SOZDINLER CEREN	寄附研究部門教員（准教授相当） 客員准教授
	本　山　紘　希	寄附研究部門教員（助教相当） 客員准教授
	大　西　里　奈	技術補佐員
	ザナティ早苗	事務補佐員

併任教員

寺　尾　　徹	教育学部・教授
轟　木　靖　子	教育学部・教授
鹿子嶋　仁	法学部・教授
安　井　敏　晃	経済学部・教授
黒　田　泰　弘	医学部・教授
佐々木睦子	医学部・教授
平　尾　智　広	医学部・教授
石　塚　正　秀	創造工学部・教授
井　面　仁　志	創造工学部・教授
今　井　慈　郎	創造工学部・教授
梶　谷　義　雄	創造工学部・教授
紀　伊　雅　敦	創造工学部・教授
末　永　慶　寛	創造工学部・教授
林　　敏　浩	創造工学部・教授
山　中　　稔	創造工学部・教授
吉　田　秀　典	創造工学部・教授
岡﨑慎一郎	創造工学部・准教授
高　橋　亨　輔	創造工学部・准教授
中島美登子	創造工学部・准教授
野々村敦子	創造工学部・准教授
宮　本　慎　宏	創造工学部・准教授
荒　木　裕　行	創造工学部・講師
玉　置　哲　也	創造工学部・講師
竹之内　健介	創造工学部・講師
鈴　木　達　也	創造工学部・助教
田　村　啓　敏	農学部・教授
山　田　佳　裕	農学部・教授
松　村　伸　二	農学部・准教授

客員教授

Ganga Lal Tuladhar	ネパール国議会議員
Ranjan Kumar Dahal	ネパール国立トリブバン大学 サマルペンアカデミー危機管理学 研究所 上席研究員
床　桜　英　二	徳島文理大学総合政策学部教授 地域連携センター 副センター長
馬　場　俊　孝	徳島大学大学院社会産業理工学研究部 社会基盤デザイン系教授
青　井　　真	防災科学技術研究所 地震津波火山ネットワークセンター長
野　田　利　弘	名古屋大学減災連携研究センター教授 副センター長
堀　　宗　朗	国立研究開発法人海洋研究開発機構 付加価値情報創生部門長
松　尾　裕　治	
髙　嶋　博　視	

平　原　和　朗	京都大学名誉教授
有　川　太　郎	中央大学理工学部都市環境学科教授
HALUK ÖZENER	ボアジチ大学カンデリ地震観測研究所 所長・教授
橋本雄太郎	杏林大学総合政策学部客員教授
福　田　　充	日本大学危機管理学部教授
須見徹太郎	(一社) 全国地質調査業協会連合会 専務理事
髙　橋　成　実	防災科学技術研究所 地震津波火山ﾈｯﾄﾜｰｸｾﾝﾀｰ　副ｾﾝﾀｰ長
阪本真由美	兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 教授
目　黒　公　郎	東京大学生産技術研究所教授

客員准教授

宮　本　　崇	山梨大学工学部土木環境工学科准教授

2.危機管理先端教育研究事業の実施

（1）地域防災リーダー養成

香川大学では、学部の学生および社会人の方に対して、それぞれ防災に関する知識を習得し防災士の受験資格を取得するための教育プログラムを実施しています。

学部学生に対しては全学部の学生を対象に、前期は防災リテラシー養成講座として災害発生のメカニズムに関する基礎的な内容、後期は防災コンピテンシー養成講座として身近でできる防災対策などに関する実践的な内容の講義を実施しています。また、この 2 講座を受講し防災士資格を取得した 2 年生以上の学生を対象に、前期で防災ボランティア講座として災害時の被災地支援や平時の地域防災活動等の防災ボランティア活動に必要な「広範な人文・社会・自然に関する知識」を習得し、後期で防災ボランティア実習として防災ボランティア活動に必要な基本技術を身につけることで、防災ボランティア活動の中心として活動できる人材育成を目指しています。

【学生】

第 1Q：「防災リテラシー養成講座（災害を知る）A」

回	月日	講義内容	講師	所属	備考
課題 1	4/23 課題提示	地震・津波のしくみと被害	長谷川 修一	創造工学部･四国危機管理教育･研究･地域連携推進機構 (以下、危機管理機構)	
課題 2	4/30 課題提示	火山噴火のしくみと被害	山中　稔	創造工学部・危機管理機構	
1	5/7 (ｵﾝﾗｲﾝ講義開始)	・ガイダンス （防災士をめざそう） ・近年の自然災害に学ぶ -災害現場からの教訓-	井面 仁志 藤目 浩二 磯打 千雅子 高嶋 博視	創造工学部・危機管理機構 危機管理機構 危機管理機構・創造工学部 香川大学客員教授 元横須賀地方総監（海将）	外部招聘講師
2	5/14	災害とライフライン	松本 秀應	危機管理機構	
3	5/21	災害と交通インフラ -四国の防災対策-	福島　奨	国土交通省四国地方整備局	出前講座
4	5/28	防災気象情報の知識と活用 -公的機関による予警報-	高松地方気象台職員	高松地方気象台	出前講座
5	6/4	火災と防火対策	橘 裕治	高松市消防局消防防災課	出前講座
6	6/11	土砂災害	長谷川 修一	創造工学部・危機管理機構	

第 2Q：「防災リテラシー養成講座（災害を知る）B」

回	月日	講義内容	講師	所属	備考
1	6/18	･60 分 第 8 講：災害情報の活用と発信 ･30 分 第 6 講：災害関連情報と予警報	木原 光治	四国新聞社編集局	外部招聘講師
2	6/25	･60 分 第 2 講：気象災害・風水害 ･30 分 第 6 講：災害関連情報と予警報	寺尾　徹	教育学部・危機管理機構	
3	7/2	･60 分 第 1 講：地震・津波による災害 ･30 分 第 15 講：地震・津波への備え（自助）	金田 義行	危機管理機構	
4	7/9	･60 分 第 9 講：行政の災害対策と危機管理 ･30 分 第 15 講：地震・津波への備え（自助）	小林 正直	香川県危機管理総局 危機管理課	出前講座
5	7/16	･60 分 第 18 講：避難所の設置と運営協力 ･30 分 第 19 講：地域防災と多様性への配慮	高橋 真里	危機管理機構	
6	7/23	･60 分 第 17 講:自主防災活動と地区防災計画 ･30 分 第 19 講：地域防災と多様性への配慮	磯打 千雅子	危機管理機構・創造工学部	
7	7/30	･60 分 第 21 講：防災士に期待される活動	井面 仁志 磯打 千雅子	危機管理機構 危機管理機構・創造工学部	
	7/30	第 2Q 未試験（17:20-17:50）	井面 仁志 藤目 浩二 野々村 敦子 磯打千 雅子	創造工学部・危機管理機構 危機管理機構 創造工学部・危機管理機構 危機管理機構・創造工学部	

2 学期：主題 C 実践型「防災コンピテンシー養成講座（災害に備える）」

回	月日	講義内容	講師	所属	備考
1	10/8	ガイダンス 被害想定とハザードマップ	野々村 敦子	創造工学部・危機管理機構	
2	10/15	防災訓練 －災害イメージ訓練－	梶谷 義雄	創造工学部・危機管理機構	
3	10/22	事業継続計画と地域継続計画	磯打 千雅子	危機管理機構・創造工学部	
4	10/29	耐震診断と耐震補強	宮本 慎宏	創造工学部・危機管理連構	
5	11/5	避難と避難行動	井面 仁志	創造工学部・危機管理連構	
6	11/12	身近でできる防災対策	久保 雅和	香川県防災士会	外部招聘講師
7	11/19	災害復旧と支援制度 －高松市の防災対策－	三木 浩史	高松市総務局危機管理課	出前講座
8	11/26	避難所の運営と仮設住宅の暮らし	中島 美登子	創造工学部・危機管理機構	
9	12/3	復興と地区防災計画	原　孝吏	高梁川東西用水組合 （前　倉敷市建設局長）	外部招聘講師
10	12/10	災害医療	黒田 泰弘	医学部附属病院救命救急ｾﾝﾀｰ・危機管理機構	
11	12/17	地域の防災活動	岩崎 正朔	かがわ自主ぼう連絡協議会	外部招聘講師
12	12/24	災害とボランティア活動	藤本 泰成	香川県社会福祉協議会	外部招聘講師
13	1/21	惨事ストレスと心のケア	浅海 明子	香川カウンセリングセンター	外部招聘講師
14	1/28	災害と損害保険	小塚 照夫	日本損害保険協会四国支部	出前講座
15	2/4	災害と危機管理 修了式	長谷川 修一 磯打 千雅子	創造工学部・危機管理連構 危機管理機構・創造工学部	
16	2/15	期末試験	井面 仁志 藤目 浩二 野々村 敦子 磯打千 雅子	創造工学部・危機管理連構 危機管理機構 創造工学部・危機管理機構 危機管理機構・創造工学部	
	2/20	防災士認定試験（希望者） @創造工学部キャンパス	日本防災士機構	日本防災士機構	

【一般】

社会人向けには、10 月～2 月の 5 ヶ月間に渡り、月 1 回(5 コマの講義)の集中講義形式で、公開講座として同様のプログラムを提供しています。講師陣は、香川大学の教員だけではなく、防災関係機関の第一線でご活躍中の方々にも加わっていただくことで、充実した講義内容となっています。

令和 2 年度も、創造工学部、地域連携・生涯学習センターと連携して、防災士養成講座(学生対象講座及び社会人対象)を開講し学生 61 名、社会人 134 名、合計 195 名の防災士資格試験合格者を輩出しました。防災士養成講座を開始した平成 21 年度から令和 2 年度までの 12 年間で学生 606 名、社会人 1,407 名、合計 2,013 名の合格者を輩出しました。

防災士養成講座（短期）

月日		NO	時限	講　義　内　容	講　師
第1回 10月3日(土)	3301講義室	1	1	ガイダンス 防災士に期待される活動	創造工学部・危機管理機構　長谷川　修一 危機管理機構　藤澤 一仁
		2	2	地域の防災活動	かがわ自主ぼう連絡協議会　会長 岩崎 正朔
		3	3	災害ボランティア活動	香川県社会福祉協議会 南条 克哉
		4	4	被害想定・ハザードマップ	創造工学部・危機管理機構 野々村 敦子
		5	5	クロスロード(演習)	創造工学部・危機管理機構 野々村 敦子
第2回 10月10日(土)	3301講義室	6	1	惨事ストレスと心のケア	香川カウンセリングセンター　所長 浅海 明子
		7	2	近年の自然災害に学ぶ ―災害現場からの教訓―	危機管理機構　客員教授 髙嶋 博視
		8	3	避難と避難行動	創造工学部・危機管理機構 井面 仁志
		9	4	地震・津波のしくみと被害	創造工学部・危機管理機構 長谷川 修一
		10	5	風水害・土砂災害と対策	創造工学部・危機管理機構 長谷川 修一

授業風景（感染対策実施）

防災士養成講座（短期）

月日		No	時限	講　義　内　容	講　　師
第3回 10月17日(土)	3301講義室	11	1	防災気象情報の知識と活用 －公的機関による予警報－	教育学部・危機管理機構 寺尾　徹
		12	2	災害医療	医学部附属病院救命救急ｾﾝﾀｰ長･危機管理機構 黒田　泰弘
		13	3	行政の災害対応 －香川県の防災対策－	香川県危機管理総局危機管理課副課長 小林　正直
		14	4	事業継続計画と地区防災計画	危機管理機構 磯打　千雅子
		15	5	災害と保険	日本損害保険協会四国支部課長代理 上浦　智明
第4回 11月28日(土)	3301講義室	16	1	耐震診断と耐震補強	名誉教授 松島　学
		17	2	先人の教えに学ぶローテク防災術(演習)	危機管理機構　客員教授 ((株)熊谷組四国支店）松尾裕治
		18	3	災害情報の活用と地域防災	香川県防災士会 久保　雅和
		19	4	地震に関する知見・情報	危機管理機構 金田　義行
		20	5	ライフライン・交通インフラの確保	危機管理機構 藤澤　一仁
第5回 12月5日(土)	3301講義室	21	1	行政の災害対応 －高松市の防災対策－	高松市総務局次長危機管理課長 三木　浩史
		22	2	緊急救助技術を身につける	危機管理機構 高橋　真里
		23	3	災害と危機管理	名誉教授 白木　渡
			4	修了式	危機管理機構　長谷川　修一 危機管理機構　藤澤　一仁
			5	防災士試験	NPO 法人日本防災士機構

授業風景（実習の様子）

（2）機能別消防団の運営

平成 26 年 7 月 2 日(水)、高松市消防団機能別分団として「香川大学防災サポートチーム」を発足し、高松市消防局 4 階災害対策室において結成式を行いました。

この「香川大学防災サポートチーム」は、平成 24 年度から、本学と高松市との間で準備を進めてきたもので、平成 20 年 2 月 28 日に高松市と締結した「非常災害時における避難所指定に伴う申し合わせ」に基づき、大規模災害発生時に、避難所として指定されている本学経済学部第二体育館及び創造工学部学生食堂の運営に関する補助（避難所や周辺の状況等の情報把握、備蓄物資や救援物資の配付・管理、並びに負傷者への応急手当など）を行う学生組織です。

「香川大学防災サポートチーム」には、本学の特別教育プログラムである「防災士養成プログラム」の 1 年次の課程を修了し、防災士資格を取得した学生を中心に、防災士の資格取得を目指して勉強している 1 年生を合わせた８７名の学生が参加しています（2021 年 3 月 1 日時点）。この組織の指揮命令は、高松市消防局が行いますが、学生だけに任せるのではなく、大学としてもサポートを行うこととしています。

2020 年度は、新型コロナ感染症の感染拡大を受け、コロナ禍における避難所の受け入れ体制の検討を開始しました。

活動の様子

（3）メンタルヘルスアップリーダー養成

香川大学では平成 22 年度より「メンタルヘルスアップリーダー養成」を行っています。平成 30 年 3 月に香川県が定めた「いのち支える香川県自殺対策計画」の一環として行っており、2020 年度は、民生委員児童委員等を対象とした講習会を実施しました。一部の研修会については新型コロナウイルス感染症の蔓延のため中止せざるを得ませんでしたが、概ね当初の計画どおり実施することができました。

① リーダー養成講座

本事業で作成した資料集を用いて、地区民生委員を対象にリーダー養成講座を開催しました。「気づく・聴く・つなぐ」を理解し実践できる人材の養成を目的としています。

・開催回数（受講者数）4 回（93 名）

② サポーター講座

養成講座を修了したリーダーが地域住民を対象にサポーター講座を開催して、自殺の現状と予防の知識を地域の身近な人へ声をかけること、話が聴けることの演習をしました。

また、リーダーがサポーター講座を開催出来るようにするための支援を行いました。

・開催回数（受講者数）5 回（計 135 名）

③ 交流集会

養成したリーダーを対象に、「最新の自殺の現状」、「抑うつ状態の基本的理解」、「自分と他人の違いを知る」、「問題を発見する」、「カウンセリングの基本・話をよく聴く」、「連携先を考える」、「サポーター講座開催」についてブラッシュアップを行いました。

・開催回数（受講者数） 1 回（24 名）

④ 香川県自殺対策協議会への参画

（4）「四国防災･危機管理プログラム」実施による防災・危機管理専門家養成

香川大学と徳島大学が連携して実施する「四国防災・危機管理プログラム」は、東日本大震災の教訓を踏まえて、また大規模広域災害やグローバル化する危機に対して、迅速な状況把握のもとに適切な判断・意思決定を行い、減災・復旧・復興・組織再生へ向けて適切に対応できる専門家を養成する取り組みです。この事業のステークホルダーである香川県及び徳島県と連携し、実践力を備えた専門家の養成を目指しています。また、今後四国の国立 5 大学連携事業として展開することを目指しています。

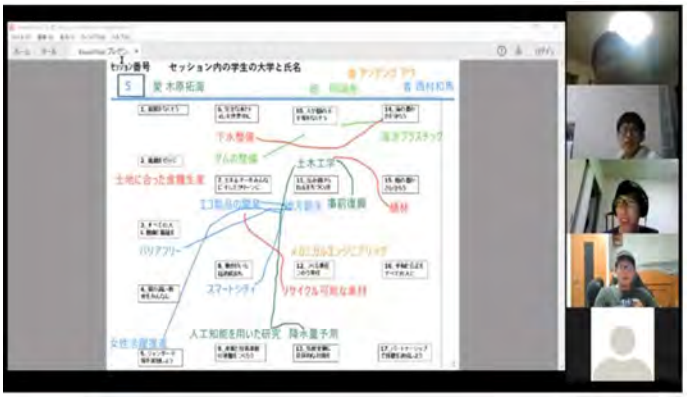
平成 24 年度に開始した本プログラムの修了生は、令和 2 年度までに 196 人を数え、行政、企業、医療、学校の各分野において、職場や地域における防災リーダーとして活躍しています。

近い将来、南海トラフ巨大地震の発生が想定される四国地方においては、防災・危機管理の専門家の養成は必要性かつ緊急性の高い重要な事業です。引き続き、四国における関係機関との連携を深め、地域防災力の向上に繋がる事業として取り組んでいきます。

■令和 2 年度の取り組み

四国防災共同教育センターでは、平成 25 年 4 月より香川・徳島の両大学で、「学校防災・危機管理マネージャー養成」、「行政・企業防災・危機管理マネージャー養成」、「救急救命・災害医療・公衆衛生対応コーディネーター養成」の 3 コースで人材養成に取り組んで来ていました。

平成 29 年度からは、「行政・企業」と「救急救命」の 2 つのコースを「行政・企業・医療」の一つのコースとして受講生を募集することとし、「行政・企業・医療のリスクマネジメント」、「事業継続計画（BCP・MCP）の策定と実践」として実施する体制としました。



ホワイトボード機能を利用した遠隔事業

また、平成 30 年度からは授業の質を高める意味から、香川大学と徳島大学の 2 大学で個別に講義を行っていた「行政・企業・医療のリスクマネジメント」、「事業継続計画（BCP・MCP）の策定と実践」について、2 大学の講師が連携して一つのカリキュラムを構成して実施するよう見直しました。

感染症対策を実施した DIG 訓練の状況

令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症対策として、講義は全て Zoom によるオンライン授業とするとともに、訓練などオンラインでは困難な授業については徹底した感染症対策を実施して、対面で授業を行いました。年度当初は教員、学生ともに不慣れなこともありトラブルも発生しましたが、通学の必要が無くなったことなどか

ら出席率が向上するなど、メリットも多く、より広範囲な地域から履修生を受け入れることのできる環境が整い、今後のプログラムの質的な向上につながるのではないかと期待しています。

■令和２年度の受講申込、修了状況

令和２年度は、行政・企業・医療コース 17 名（大学院生８名、社会人９名）の受講申込がありました。また、令和３年３月、第７期了生として行政・企業・医療コース 22 名（大学院生７名、社会人 15 名）が本プログラムを修了し、災害・危機対応マネージャーの資格を付与しました。

■防災・危機管理人材養成シンポジウム

「四国防災・危機管理プログラム」最終成果報告及び第７期生修了記念として、第９回「防災・危機管理人材養成シンポジウム」を令和３年３月 15 日(月)、Zoom 及び YouTube によるオンライン配信によって実施しました。

■修了生の活動状況　「災害・危機対応マネージャーとして」

田中　元
(社福)喜勝会理事、香川短期大学生活文化学科非常勤講師、香川県災害派遣福祉チーム、香川県社会福祉協議会災害福祉支援コーディネーター、ライオンズクラブ国際協会３３６複合地区(四国)アラートリーダー
防災士、災害・危機対応マネージャー（令和２年度修了）

現在、私は社会福祉系の大学講師、社会福祉機関、社会奉仕団体において災害支援及び、防災教育に関わっています。大学では社会福祉の理論と共に、災害時における支援活動に必要な災害の定義や災害ソーシャルワークの講義及び、福祉避難所運営ゲーム等の演習を行い学生の災害支援力を養います。

次に、災害福祉支援者として平時は保健医療福祉の多職種による合同研修・訓練の実施及び、社会福祉施設等における事業継続計画の策定支援、災害時は避難所等での福祉ニーズの情報収集、災害派遣福祉チームの迅速な派遣調整等のコーディネート、災害医療コーディネーター等の保健医療関係者との連携を担っています。また、四国４県で１４０クラブが加入する社会奉仕団体のアラートリーダーとして、災害時は被災地の状況把握及び、関係機関と支援方法の協議を行い、組織的に被災地へボランティアを輸送するバスやボランティア活動の為の資機材を無償で提供するなど、被災地のボランティアへの後方支援活動の陣頭指揮を担当します。以上の活動が災害時において有効に機能する様に平常時から関係機関と連携、協働しながら支援体制の構築に取り組んでおり、今後ともご支援を宜しくお願い致します。

（5）学校防災アドバイザー派遣事業

香川県教育委員会が、各学校(園)の防災体制の整備や防災教育の更なる充実を図る事を目的に、防災の専門家を学校防災アドバイザーとして派遣する事業を 2012 年度にスタートしました。香川大学では香川県教育委員会の依頼を受け、毎年講師を派遣、防災アドバイザー派遣希望校に対し、本機構、日本技術士会四国本部、香川県防災士会及び高松地方気象台が協同でアドバイスを実施しております。

2020 年度は 6 月 26 日～12 月 22 日の期間で事業を実施しアドバイザーの派遣は 17 校(園)、延べ 25 回となりました。主な助言内容については、様々な想定や地域の防災関係機関と連携した避難訓練、防災マップづくり、災害発生時のボランティア活動（避難所運営訓練等）、防災教育への助言内容等、多様な項目についてアドバイスを行いました。各学校(園)においては災害環境の把握や防災対策への理解、危機管理マニュアル等の確認と見直しが図られるなど、様々な成果が得られました。

2020年度学校防災アドバイザー派遣実施状況

番号	学校所在の市町名	学校(園)等名	本事業の活用希望理由(簡潔に)	活用希望回数	実施予定日	実施予定時間
1	さぬき市	さぬき南小学校	①既存の危機管理マニュアルが地域特性や児童の実態に応じたものになるように整備・充実を図りたい為。②引き渡し訓練をより実効性のある訓練にしたい為。１回目は危機管理マニュアル改善に対する助言と、実際に行う引き渡し訓練に対する助言とをお願いしたい。2回目は実際に行う消防署と連携した幼小合同の火災避難訓練に対する助言をお願いしたい。	2回	6月26日	14：00～16：30
2	東かがわ市	丹生こども園	避難経路や避難場所の再確認を行いたいので、それに対する助言をお願いしたい。	1回	7月10日	9：30～11：30
3	高松市	古高松南小学校	新川の沿いの低地にある本校は、大きな地震が発生した場合に津波だけでなく、液状化等の危険性も高い為、２次避難場所をどこにすべきか困っている。本校周辺の地盤調査など科学的に分析して頂き、最善の避難方法についてアドバイス頂きたい。昨年度、本校区の春日幼稚園が本事業において科学的な見地から様々なアドバイスを頂いたと聞いた。教職員のみの参加であるが可能であれば本校でもぜひご助言を頂きたい。	1回	8月4日	10：00～11：00
4	三豊市	仁尾中学校	市作成の防災マップでは本校が避難場所に指定されているが、本校は埋め立て地に建築され、校舎も老朽化し、避難所としてふさわしいのか、疑問である。大地震に備えた実効性のある避難経路を明確にした上での防災・避難訓練を行うために希望した。昨年度も助言をいただいたが、今年度も現実的な避難経路設定に向けての管理職との相談会をお願いしたい。	2回	8月5日	10：00～12：00
5	三豊市	詫間中学校	学校周辺の自然条件から考えて、高潮や津波が起こった際の避難について見直す必要があります。 第1回目は、実際に学校周辺地域で避難ルートを検証し、助言をいただきたい。 第2回目は、1回目の助言を生かした避難計画についてのご助言をいただき、来年度の避難訓練へとつなげたい。	2回	8月6日	9：30～11：30
6	三豊市	詫間中学校	学校周辺の自然条件から考えて、高潮や津波が起こった際の避難について見直す必要があります。 第1回目は、実際に学校周辺地域で避難ルートを検証し、助言をいただきたい。 第2回目は、1回目の助言を生かした避難計画についてのご助言をいただき、来年度の避難訓練へとつなげたい。	2回	8月18日	9：30～11：30
7	宇多津町	宇多津幼稚園	1回目は、職員を対象とした研修として、防災計画や危機管理マニュアルの見直しを図りたいので、ご助言をお願いしたいです。 2回目は、実際に行う防災避難訓練に対する助言をお願いしたいと思います。	2回	8月24日	9：30～11：30
8	三豊市	山本幼稚園	新設園のため、園の置かれている災害環境や避難経路について相談したく、希望いたしました。 1回目は職員を対象とした研修、2回目は実際に行う防災避難訓練に対する助言をお願いしたい。	2回	8月27日	13：00～14：00
9	高松市	高松養護学校	本校は県下唯一の肢体不自由児学校で、児童生徒のほとんどが車いすを利用し、避難する為には教職員の介助が不可欠である。現行の避難方法や校内待機策、備蓄内容等についてご助言をいただきたい。１回目は教職員に対する研修会(講演会)を、２回目は実際に行う防災避難訓練に対するご助言をお願いしたい。	2回	8月26日	15：30～16：50
10	丸亀市	城西小学校	毎年、避難訓練を実施しているが、より実効性のある訓練とするために、避難訓練や防災教育等へ専門家から助言を受けたいため。	1回	9月1日	9：30～10：15
11	観音寺市	豊田小学校	前半は実際に行う防災訓練に対する助言、後半は校内の安全点検ならびに職員を対象とした研修をお願いしたい。	1回	9月2日	14：00～16：00
12	三豊市	下高瀬小学校	学校の置かれている災害環境や地域の自主防災組織等との連携の仕方が分からないので、第一歩を踏み出すために希望しました。 子どもたちの避難訓練の様子を見て助言、管理職や担当職員への助言（避難確保計画の作成の仕方や避難訓練の仕方についての指導、10月25日の防災フェスタに向けての助言をお願いしたい。）	1回	9月3日	9：30～11：00
13	高松市	大手前高松中学・高等学校	昨年度まで高松南消防署から職員を派遣していただき、防災避難訓練を行っていたが、今年度から派遣無しとなり、今後実施していくうえで、第三者の目で助言をいただきたいから。	1回	9月16日	14：20～15：10
14	坂出市	東部小学校	４年生の総合的な学習の時間に防災教育を実施しており、昨年度地域の自主防災組織の方々と一緒に地域を歩き、これまで作成した防災マップを見直しました。その防災マップを活用した防災活動や、市の防災マップとの比較や、自主防災組織や市危機管理室との連携、について ご助言いただきたいと思います。	1回	9月29日	13：40～14：25
15	三豊市	山本幼稚園	新設園のため、園の置かれている災害環境や避難経路について相談したく、希望いたしました。１回目は職員を対象とした研修、２回目は実際に行う防災避難訓練に対する助言をお願いしたい。	2回	9月30日	10：00～11：30
16	高松市	香川大学教育学部附属高松小学校	疑似体験を通して、子どもの防災意識を高め、防災の考えや活動、グッズ案を動画やチラシ、商品にして、地域に発信するため３回以上の活動を希望しています。	2回	10月13日	12：50～14：50
17	高松市	大野小学校	避難訓練への助言を昨年度もいただいたことで、発達段階に応じて児童生徒等一人ひとりが状況を的確に判断し、学校の一員として適切に行動することができる能力や、態度の育成につながった。また、防災教育が充実した。	1回	10月18日	8：30～12：30
18	宇多津町	宇多津幼稚園	1回目は、職員を対象とした研修として、防災計画や危機管理マニュアルの見直しを図りたいので、ご助言をお願いしたいです。 2回目は、実際に行う防災避難訓練に対する助言をお願いしたいと思います。	2回	10月27日	13：15～15：15
19	三豊市	仁尾中学校	市作成の防災マップでは本校が避難場所に指定されているが、本校は埋め立て地に建築され、校舎も老朽化し、避難所としてふさわしいのか疑問である。大地震に備えた実効性のある避難経路を明確にした上での防災・避難訓練を行うために希望した。昨年度も助言をいただいたが、今年度も現実的な避難経路設定に向けての管理職との相談会をお願いしたい。	2回	11月4日	13：20～14：10
20	高松市	高松養護学校	本校は県下唯一の肢体不自由児学校で、児童生徒のほとんどが車いすを利用し、避難するためには教職員の介助が不可欠である。現行の避難方法や校内待機策、備蓄内容等についてご助言をいただきたい。１回目は教職員に対する研修会(講演会)を、２回目は実際に行う防災避難訓練に対するご助言を、お願いしたい。	2回	11月11日	10：00～11：30
21	高松市	香川大学教育学部附属高松小学校	疑似体験を通して、子どもの防災意識を高め、防災の考えや活動、グッズ案を動画やチラシ、商品にして、地域に発信するため３回以上の活動を希望しています。	3回	11月13日	9：00～11：00
22	高松市	香川大学教育学部附属高松小学校	疑似体験を通して、子どもの防災意識を高め、防災の考えや活動、グッズ案を動画やチラシ、商品にして、地域に発信するため３回以上の活動を希望しています。	3回	11月24日	12：50～13：35
23	坂出市	東部小学校	４年生の総合的な学習の時間に防災教育を実施しており、昨年度地域の自主防災組織の方々と一緒に地域を歩き、これまで作成した防災マップを見直しました。その防災マップを活用した防災活動や市の防災マップとの比較や自主防災組織や市危機管理室との連携についてご助言 いただきたいと思います。	2回	11月17日	13：40～15：20
24	さぬき市	さぬき南小学校	①既存の危機管理マニュアルが地域特性や児童の実態に応じたものになるように整備・充実を図りたいため、②引き渡し訓練をより実効性のある訓練にしたいため。1回目は、危機管理マニュアル改善に対する助言と、実際に行う引き渡し訓練に対する助言、とをお願いしたい。2回目は実際に行う消防署と連携した幼小合同の火災避難訓練に対する助言を、お願いしたい。	2回	12月17日	13：30～16：00
25	三豊市	高瀬高等学校	避難所運営の避難訓練を見ていただき、改善点や感想などをいただきたい。	1回	12月22日	12：00～12：45

（6）想定外災害再現・教育訓練実施

四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構では、東日本大震災の教訓をもとに想定を超える災害発生時において「適切な状況判断」、「素早い意思決定」、「速やかな行動」ができる、実践力（コンピテンシー）を備えた人材の育成を目的に、「災害状況再現・対応能力訓練システム」を開発し、2013 年 6 月 11 日に公開訓練を実施しました。体験可能なコースは、「学校防災コース」、「応急手当・救命コース」であり、希望者からの申し込みに応じて訓練を実施しています。

2020 年度は、計 21 回の研修を実施しました。受講者・見学者 236 名、そのうち教員役の体験者 43 名です。2020 年度の利用状況の内訳を表 1 のとおりです。新型コロナウイルス感染症の流行もあり、中止となった研修もありました。研修は感染症対策とりながら実施しました。1 回の訓練体験者数を 15 名程度に制限し、1 日に複数回研修を実施するなどの対応をとりました。

表 1　2020 年度利用状況の内訳

分類	詳細
学校関係	高松市保育研究会、穴吹医療大学学校、附属高松小学校、香川県教育センター、教員免許状講習
地域組織	高松帝酸株式会社
国際関係	－
学内実習	ネクストプログラム防災ボランティア実習

システムの概要

想定外の災害に対応するための訓練システムを開発しています。本訓練システムは、VR（バーチャルリアリティ）を用いて想定を超える災害状況を再現し、その危機的な状況の中で訓練体験者が置かれた状況を適切に判断し、意志決定を行い、行動を起こす、という一連の訓練を経て、実践力の習得を目指します。

訓練の様子 1

訓練の様子 2

3.地域強靭化研究・地域貢献事業の実施

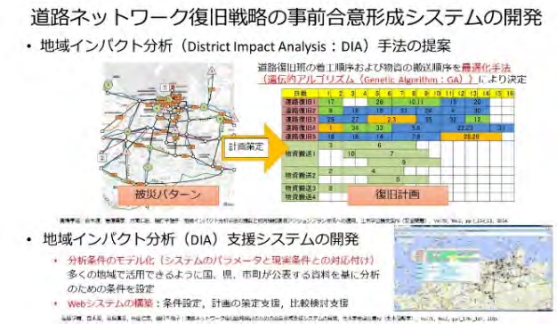
(1)香川地域継続検討協議会の運営

四国地方では、南海トラフの巨大地震災害の発生が予想され、東日本大震災規模あるいはそれ以上の被害を受けることが危惧されており、ひとたび大規模地震が発生すれば、被害は個々の組織に止まらず四国地域全体に及び、四国が機能不全に陥る恐れがあります。このような事態に対応するには、行政、企業、学校、病院等の個々の組織が事業を継続することは勿論、まず各市町、次に県単位での地域継続、さらに四国全体の継続を考え各組織が連携して地域継続計画（District Continuity Plan：DCP）を策定推進する必要があります。

このような観点から四国危機管理教育･研究･地域連携推進機構（以下、危機管理機構）では関係機関と連携して、平成２４年５月「香川地域継続検討協議会」（以下、協議会）を設立しました。協議会には国、香川県､高松市や商工会等の他、電力、ガスなどのインフラを担う企業が参加しています。危機管理機構は事務局を務め、関係機関と連携して協議会を運営しています。

これまでに香川地域継続検討協議会を 28 回、一般の方も参加の香川地域継続検討協議会勉強会を 28 回、シンポジウムを 9 回開催しました。

第 28 回協議会では「ＤＩＡ分析の利用について」香川大学より情報提供、「構成機関における災害時の活動内容（債務）の共有について」では３機関より、災害時の活動内容について分かりやすくご説明頂きました。参加者より質問も多く寄せられ、有意義な会となりました。



ＤＩＡ分析の利用について

第 28 回香川地域継続検討協議会の様子
（オンラインを併用して開催）

●香川地域継続検討協議会

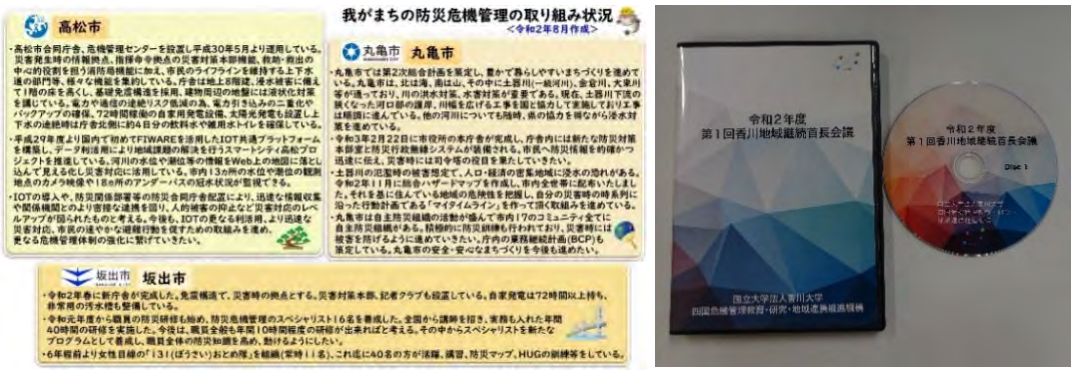
回数	開催日	参加人数	議事内容
第27回	11月12日（木）	29名	① 災害ボランティアセンターの立ち上げと運営訓練の実施状況の共有について ② 構成機関における災害時の活動内容(責務)の共有について ③「南海トラフ地震臨時情報」発表時の構成機関の対応についての共有
第28回	3月25日（木） （オンライン開催）	30名	① 構成機関における災害時の活動内容(責務)の共有について ② DIA分析の利用について ③ 水害に強いまちづくり協議会について ④ 令和3年度の地域継続検討協議会について ＊設立8周年記念シンポジウムと同時開催

●香川地域継続検討協議会設立8周年記念シンポジウム

開催日		講師名	所属･役職･『テーマ』
3月25日（木） 116名参加	【第1部 活動報告】	長谷川 修一氏	香川大学四国危機管理教育･研究･地域連携推進機構 危機管理先端教育研究センター長　教授 1.『四国の地域継続力向上を目指して ～香川地域継続検討協議会の活動報告～』
		金田　義行 氏	香川大学四国危機管理教育･研究･地域連携推進機構 地域強靭化研究センター長　特任教授 2.『ニューノーマル社会における減災科学の推進』
	【第2部 講演】	渡辺 研司　氏	名古屋工業大学大学院 教授
	◆基調講演		『激甚化･頻発化する風水雪害と官民連携による地域型BCMの役割』
	◆話題提供	酒井 直樹　氏	防災科学研究所 水･土砂防災研究部門 総括主任研究員
		堀口 真伍　氏	株式会社ホリグチ代表取締役/真備船穂商工会青年部監事
		角森 博司　氏	株式会社フソウ鋼管工場　副工場長
		織田 浩幹　氏	香川県危機管理総局 危機管理課課長補佐

（2）香川地域継続首長会議の運営

南海トラフ巨大地震の発生確率が高まる中、香川県での被害軽減を図るためには基礎自治体である、県内 17 市町が適切な被害想定のもとに地域防災計画の見直し、業務継続計画の策定をはじめ地域防災力の向上に努める必要があります。そこで香川県内 17 市町の首長を中心に国・県の行政機関及び大学が連携して平成 26 年 3 月 27 日に「香川地域継続首長会議」（事務局：香川大学）を設置しました。香川県の地域継続力の向上を図ると共に、四国の緊急災害対策拠点としての機能を発揮する事を目指して、香川県の強靭化に取り組んでいます。令和 2 年度は新型コロナの影響もあり、首長が一堂に会する会議に代え「我がまちの防災危機管理の取り組み状況」及び「国土強靭化地域計画の策定状況について」というテーマで 17 市町長から現状をお話し頂きました。その内容で DVD を作成(令和 2 年 8 月)し、令和 2 年度第 1 回香川地域継続首長会議とさせて頂きました。



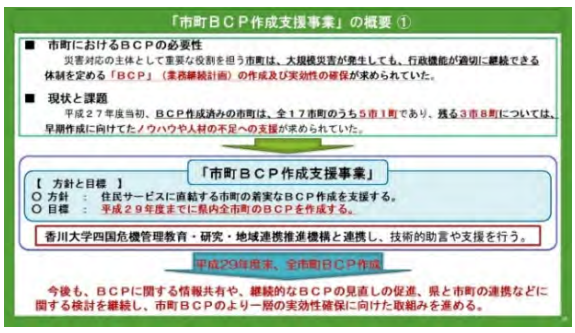
我がまちの防災危機管理の取り組み状況（令和 2 年 8 月作成のＤＶＤより要約）

令和 3 年 3 月 30 日に令和 2 年度第 2 回香川地域継続首長会議を、メール審議にて実施しました。令和 2 年度第 1 回香川地域継続首長会議での各首長からのご意見、香川地域継続検討協議会の活動状況、水害に強いまちづくり検討会活動状況、市町ＢＣＰ作成支援事業の進捗状況について、報告させて頂きました。

水害に強いまちづくり検討会は、土器川における大規模水害の発生を想定し、広域的な地域連携による「水害に強いまちづくり」を目指した危機管理対策の検討を平成 25 年度から開始し、「土器川大規模氾濫に関する減災対策協議会」を平成 28 年 6 月に設立しました。これまでの「水害に強いまちづくり」検討の成果（住民意見）を反映させて「土器川の減災に係る取組方針」を平成 28 年 8 月に取りまとめました。

市町ＢＣＰ作成支援事業は、市町の着実なＢＣＰの作成について香川県と危機管理機構が連携し、住民サービスに直結する技術的助言や支援を行いました。平成 27 年度当初は全 17 市町のうち 5 市 1 町がＢＣＰ作成済みでしたが平成 29 年度末までに全市町のＢＣＰを作成する事が出来ました。今後もＢＣＰに関する情報共有や、継続的なＢＣＰの見直しの促進、県と市町の連携などに関する検討を継続し、市町ＢＣＰのより一層の実効性確保に向けた取組みを進めてまいります。

水害に強いまちづくり検討会 検討体制と対象



市町ＢＣＰ作成支援事業

（3）地域影響分析(DIA)支援システムの開発・運用

令和 2 年度は、第 28 回香川地域継続検討協議会（2021.3.25 実施）において、DIA 分析の利用について話題提供しました。協議会では、香川県道路啓開計画の長尾地区（特に東かがわ市付近）を対象とした市町レベルの道路啓開計画の分析事例を報告しました。

香川県道路啓開計画の指定道路のみに被害箇所を設定した条件での分析結果を、図 1 および図 2 に示します。分析結果では、東かがわ市の南側から北側に向かって啓開し、その後東西への啓開が最適解でした。香川県道路啓開計画の 1 次優先指定道路に至るために、2 次優先指定道路を先に担当する箇所もありました。このため、道路啓開計画の第 1 次、第 2 次に到達するまでの地域啓開の影響を考える必要があることを報告しました（本分析結果は、建設業の初期位置に大きく関係している点は注意、分析では事業所位置を設定）。シミュレーション上の分析条件は、今後も検討が必要であり、次年度追加で分析を進める予定です。

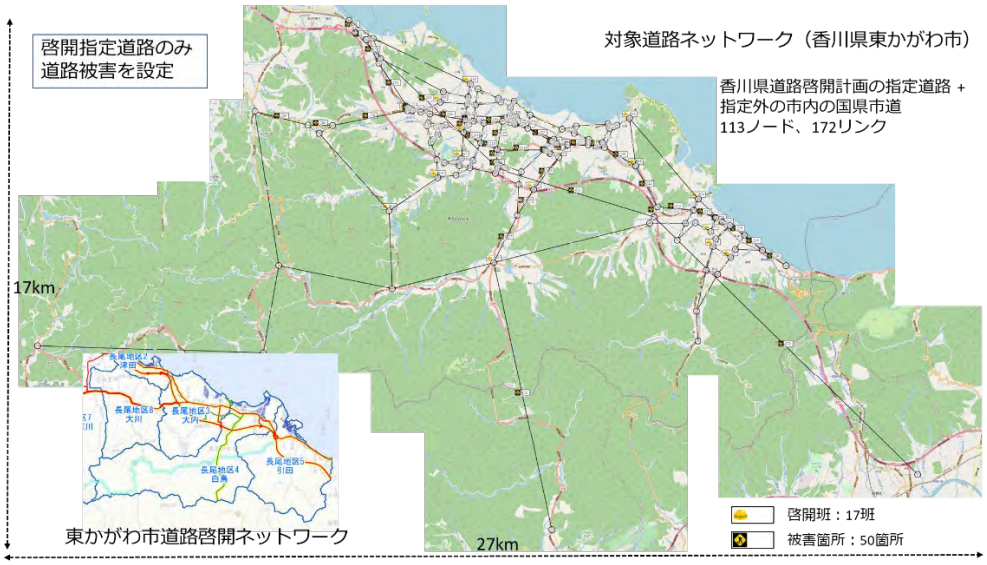


図 1　対象道路ネットワーク

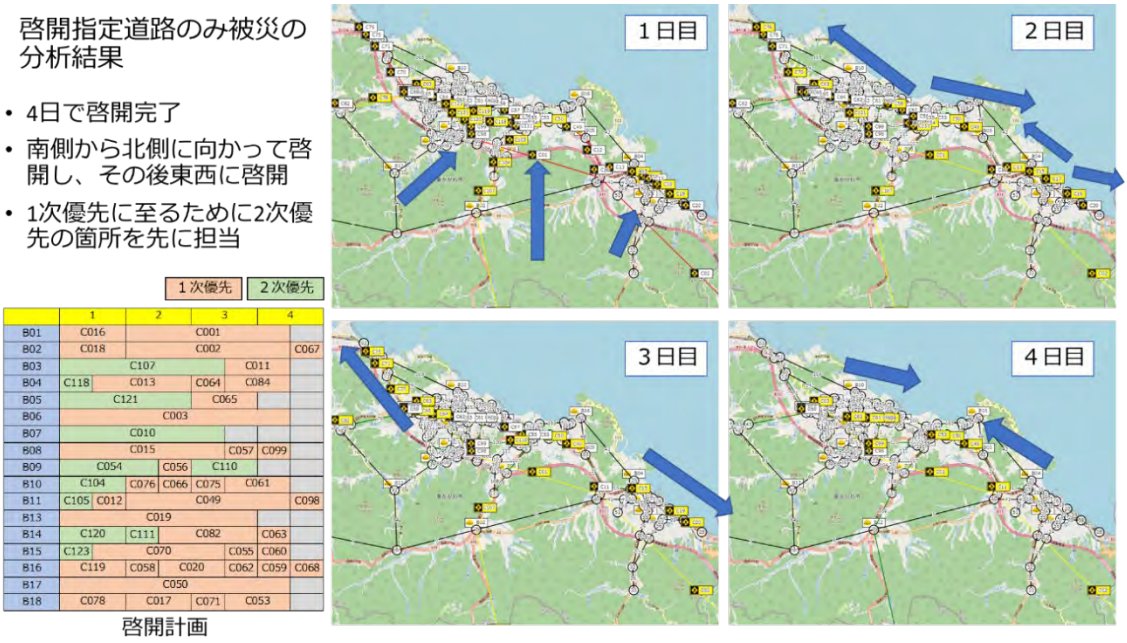


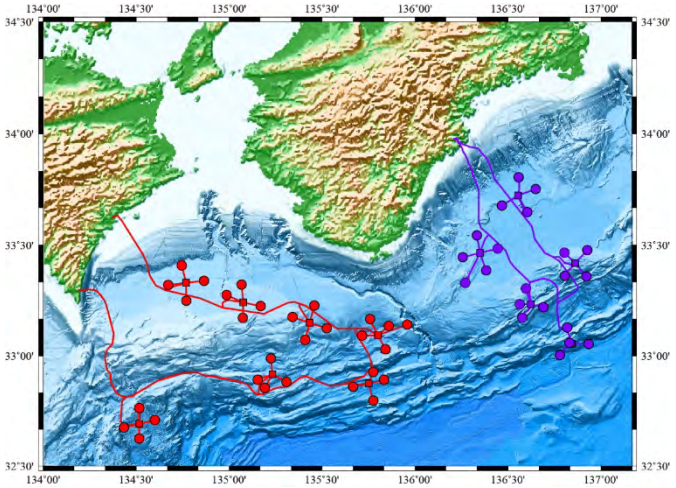
図 2　啓開指定道路のみ被災の分析結果

（4）地震・津波観測監視システム(DONET)情報の利活用

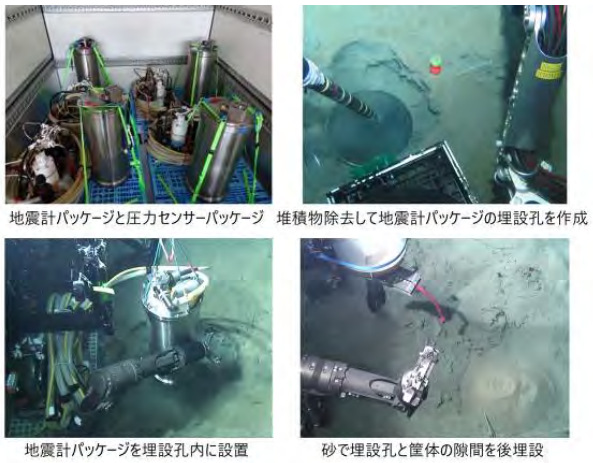
地震・津波観測監視システム(DONET)は熊野灘沖の観測網（DONET1）と紀伊水道海域の観測網（DONET2）で構成され、全体で 51 の観測点を設置しています。各観測点には地震計（強震計、広帯域地震計）、水圧計（水晶水圧計、微差圧水圧計）、温度計ならびにハイドロフォン（水中マイクロホン）が設置されています。また、土佐沖から日向灘海域で新たな海底観測 N-NET の設置が予定されています。

DONET は地震津波の早期検知が最優先の役割です。さらにＤＯＮＥＴの情報と津波シミュレーションデータベースを用いてリアルタイム浸水予測が可能となります。

令和 3 年 2 月に香川大学と防災科学技術研究所(NIED)、海洋研究開発機構（JAMSTEC)ならびに坂出市との４者協定が締結されました（「観測データの南海トラフ地震・津波災害対策への活用に関する連携協力協定」)。 幸町キャンパス OLIVE SQUARE の多目的ホールで行われた締結式には、筧善行学長及び坂出市の綾宏市長が会場参加し、NIED の安藤慶明理事は東京事務所から、JAMSTEC の阪口秀理事は横須賀市の本部からオンラインで参加しました。今後 DONET をはじめ観測データの利活用の一層の促進が期待されます。



DONET の展開図



DONET の設置

2 月 5 日の 4 者協定調印式(香川大学、NIED、JAMSTEC、坂出市)@香川大学 OLIVE SQUARE 多目的ホール

（5）まちなかカフェ開催による地域防災力向上

【減災カフェ開催の目的】

減災カフェは以下の目的で実施しています。

1．地域の災害リスクを知る､日本の地震リスクを知る、世界の災害リスクを知る。

2．南海トラフ巨大地震への備えの意識向上

3．理学､工学､医療ならびに社会科学を統合して減災､地域復興･強靭化を目指す減災科学の推進

減災カフェでは、地域住民の皆さんや小中学校生を対象に行っており、自然災害の知識や災害イメージならびに視点を変えることで潜在リスクの気づきなどについて説明し、コミュニケーションを図っています。これらの減災カフェの活動を通じて人材育成の推進が期待されています。

平成 30 年度より、高松市が開催する「ぼうさいまちカフェ」に四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構の教職員を講師として派遣しています。各講師の専門分野から、防災・減災についての話題提供を行い、一般市民と自由に語り合う場を目指しています。

高松市ぼうさいまちカフェ

開催日	時間	講師	タイトル
4 月､5 月		中止	
6 月 26 日	10:00～11:00	藤目 浩二	防災とライフラインと脳トレ少し
7 月 9 日	14:00～15:00	平尾 智広	災害と健康管理
8 月 21 日	10:30～11:30	今井 慈郎	ところで『情報セミュリティの脅威』についても、一緒に考えてみませんか。
8 月 29 日	9:30～11:30	黒田 泰弘	災害医療
9 月 14 日	14:00～15:00	井面 仁志	災害時イメージトレーニング
10 月 13 日	10:30～11:30	吉田 秀典	浸水域を考慮した避難シミュレーション
11 月 11 日	14:00～15:00	休止	
12 月 10 日	10:30～11:30	金田 義行	ニューノーマル社会における甚大災害対応を考える
1 月 28 日	14:00～15:00	sozdinler.ceren	トルコの津波研究者と語ろう！
2 月 20 日	10:00～11:00	竹之内 健介	我が家は大丈夫？水害時の避難ﾙｰﾙ最前線
3 月 9 日	14:30～15:30	萩池 昌信	健康問題は人生最大の災害である

(6) 令和２年度小豆島町危機管理等研修プログラム

四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構（以下、危機管理機構）では小豆島町役場の危機管理体制の強化を目的に、基礎自治体の防災力や危機管理能力を高める人材育成を行うため「小豆島町危機管理等研修プログラム」を実施しました。研修プログラムは計画段階から小豆島町危機管理室と協議を重ね、小豆島町の災害の歴史や地勢等を盛込んだ内容とし、DIG や HUG を取り入れた訓練も行いました。

令和2年度小豆島町危機管理等研修プログラム（香川大学実施分）

番号	日　時		会　場	講義名	講義時間
1	10月1日（木）	10:20-10:30	町役場本館 3階大会議室	開講式	10分
		10:30-12:00		危機管理について ― 小豆島の危機管理とは ―	90分
2	10月1日（木）	13:00-14:30	町役場本館 3階大会議室	小豆島の災害について ― 土砂災害・地すべりの歴史 ―	90分
3	10月8日（木）	10:30-12:00	町役場本館 3階大会議室	防災と法について ― 法体系に見る基礎自治体の役割り ―	90分
4	10月8日（木）	13:00-14:30	町役場本館 3階大会議室	行政のリスクマネジメントについて ― 小豆島のリスクマネジメントを考える ―	90分
5	10月14日（水）	13:00-14:30	町役場本館 3階大会議室	業務継続計画と地区防災計画について ― BCMのすすめ、地区防災計画のすすめ ―	90分
6	10月15日（木）	10:30-12:00	町役場本館 3階大会議室	最近の地震活動について ― 南海トラフ巨大地震の最前線 ―	90分
7	10月22日（木）	10:30-12:00	町役場本館 3階大会議室	防災・危機管理実習：DIG訓練 ― 小豆島町災害対策本部運営訓練 ―	180分
		13:00-14:30			
8	10月29日（木）	10:30-12:00	町役場本館 3階大会議室	防災・危機管理実習：HUG訓練 ― 避難所運営マニュアルの応用 ―	180分
		13:00-14:30			
		14:30-14:40		閉講式	10分
9	2月22日（月）	13:00-14:40	町役場本館 3階大会議室	防災・危機管理実習：総括DIG訓練（追加） ― 小豆島町災害対策本部運営訓練 ―	180分
		15:00-16:40			

【総括 DIG 訓練】

災害対策本部事務局員としての基礎的能力の更なる向上を図ることを目的に、総括ＤＩＧ訓練を追加実施しました。

１.開催日時：2021 年２月 22 日（月）13:00～16:30

２.開催場所：小豆島町庁舎本館３階　大会議室

３.参加者　：（注）本ＤＩＧ訓練のプレーヤーは、上記危機管理研修プログラム受講生と同じ

【プレーヤー】小豆島町職員１５名

（①総務・情報班、②保健医療民生・衛生班、③農林水産・土木・文教班）

【コントローラーなど】小豆島町職員４名

【 香川大学 】危機管理機構より 特命教授 藤澤一仁、特命教授 松本秀應、客員教授 藤目浩二

４.主要訓練項目：①情報と対策の流れ、②地図の使い方、③状況と対応の報告

５.訓練の想定：２月４日１５時、和歌山県南方沖を震源とするマグニチュード 9.1 の地震（南海トラフ地震）発生

総括 DIG 訓練の様子

4.四国国立５大学連携による危機管理教育研究推進と拠点形成

(1) 四国５大学連携防災・減災教育研究協議会の開催

令和２年度は香川大学が事務局となり、四国５大学連携防災・減災教育研究協議会を４回開催しました。各大学よりコロナ禍での大学教育の現状、大学改革・大学院改革について紹介頂きました。又、徳島大学 中野委員からの提案で、四国防災まちづくり推進研究会（仮称）のための勉強会を発足しました。

四国防災危機管理プログラムの内容について検討を進め、新科目（自由講義科目）については、「レジリエントな地域づくりのデザイン（仮称）」の提案があり、５大学の賛同を得て、令和４年度に向けて新科目の立ち上げを進めていく計画です。「四国防災・危機管理プログラム」の共同実施、５大学で博士（危機管理学）プログラムの共同設置についても、各大学の博士課程の改組と調整しながら、今後も検討していきます。

四国５大学連携防災・減災教育研究協議会（令和2年度）

	開催日	議　題
第22回	7月27日	(1) コロナ禍での大学教育の現状について (2) 大学改革・大学院改革について (3) 今後の連携・進め方について
第23回	9月17日	(1) コロナ禍での大学教育の現状について (2) 四国防災・危機管理プログラムについて
第24回	12月14日	(1) 四国防災まちづくり推進研究会(仮称)について (2) 四国防災・危機管理プログラムについて
第25回	2月24日	(1) 四国防災まちづくり推進研究会(仮称)について (2) 四国防災・危機管理プログラムについて

＊全てオンライン会議(Zoom)にて実施。

協議会の様子

(2) 四国官学連携防災・減災協議会の開催

香川大学が主管となり、四国４県の「実行力」と国立５大学の「知（地）」とを融合した新たな「官学連携」事業として、平成 30 年 10 月に「四国官学連携防災・減災協議会」(以下、協議会)を発足しました。協議会では、四国地域の防災・減災への課題の共有化や施策の研究検討等、他地域にない取り組みを検討しています。

令和２年度は協議会を２回（香川大学が事務局）開催しました。協議会では、各県･大学より防災･減災に係る人材育成･防災教育についての最近の取り組み状況を紹介頂きました。参加者からは事例を参考に、今後も連携･協力をしたいとの反響がありました。四国 4 県及び国立 5 大学が相互に連携し、四国地域の地域強靭化（レジリエンス）に貢献していきたいと考えています。

四国官学連携防災・減災協議会（令和2年度）

	開催日	議　題
第3回	10月26日	(1) 防災･減災に係る人材育成･防災教育についての取り組み (2) 話題提供：「四国人財育成塾」立ち上げのためのシンポジウム
第4回	2月2日	(1) 防災･減災に係る人材育成･防災教育についての取り組み (2) 話題提供【提案】昭和南海地震から75年シンポジウム

＊全てオンライン会議(Zoom)にて実施。

5.危機管理分野の国際学術連携推進と拠点形成

(1) 国内拠点機能の強化

国内拠点機能強化の一環として、これまでに国立研究開発法人防災科学技術研究所と連携協力協定書、国立研究開発法人海洋研究開発機構と共同研究契約書を締結しています。さらに、今年度は２月に防災科学技術研究所、海洋研究開発機構及び坂出市との４者協定を締結し、DONET をはじめとした海陸観測データの利活用による南海トラフ地震・津波の被害軽減を目指しています。

また、四国４県５大学の連携を図るための議論を四国官学連携防災・減災協議会で継続して実施しています。

＜四国５大学連携防災･減災教育研究協議会＞
第 22 回（R2.7.27） 第 23 回（R2.9.17）第 24 回（R2.12.14）第 25 回（R3.2.24）
＜四国官学連携防災･減災協議会＞（旧四国4県防災危機管理担当課長と5大学連携防災･減災教育研究協議会委員との打ち合わせ会より改名）
第３回（R2.10.26） 第４回（R3.2.2）

さらにシンポジウムや四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構(以下､危機管理機構)の客員教授による研究セミナー等を実施し、本危機管理機構を拠点とした情報発信を行っています。

開催日	タイトル	講師等	
5/3	子どものためのPFA研修	半蔵門のびすこどもクリニック､DMAT/DPAT事務局、日本赤十字社医療センター 河嶌譲 他	主催
7/3	香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構セミナー 今、私に必要な「避難」とは？	跡見学園女子大学観光コミュニティ学部 教授 鍵屋一 他	主催
8/19	海洋科学の未来と減災科学シンポジウム	国立研究開発法人海洋開発研究機構 白石和也 他	主催
9/26	香川大学ジオパーク・シンポジウム ジオパーク×防災 －大地の成り立ちから考える持続可能な地域づくり―	神戸大学高等研究院海共生研究アライアンス長 教授 巽好幸 他	主催
10/8	平原和朗地震学講座（1/6回）	香川大学客員教授、京都大学名誉教授 平原和朗	主催
10/22	平原和朗地震学講座（2/6回）	香川大学客員教授、京都大学名誉教授 平原和朗	主催
11/5	平原和朗地震学講座（3/6回）	香川大学客員教授、京都大学名誉教授 平原和朗	主催
11/5	財田地区社会福祉協議会 講演 「南海トラフ地震と内陸地震被害を考える」	香川大学 特任教授 金田義行	主催
11/12	第27回香川地域継続検討協議会	香川大学 教授 長谷川修一 他	主催
11/14	高校生高知減災エンス塾	香川大学 特任教授 金田義行	主催
11/19	平原和朗地震学講座（4/6回）	香川大学客員教授、京都大学名誉教授 平原和朗	主催
11/27	香川大学危機管理シンポジウム 新型感染症×南海トラフ地震への備え	香川大学 教授 平尾智広 他	主催
12/3	平原和朗地震学講座（5/6回）	香川大学客員教授、京都大学名誉教授 平原和朗	主催
12/24	平原和朗地震学講座（6/6回）	香川大学客員教授、京都大学名誉教授 平原和朗	主催
2/3	「四国人財育成塾」立ち上げのためのシンポジウム	前京都大学総長 山極壽一 他	主催
2/18	レジリエンスサイエンスシンポジウム	香川大学 特任教授 金田義行 他	主催
3/1	香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構セミナー 新型コロナウィルスの危機管理とリスクコミュニケーション	日本大学危機管理学部教授、同大学院新聞学研究科 教授 福田充	主催
3/8	災害と法 災害時における法律問題	杏林大学大学院国際協力研究科 客員教授 橋本雄太郎	共催
3/11	～東日本大震災から10年～ 「サヌカイトフォーンによるレクイエム」と「巽好幸先生が語るサヌカイト」	神戸大学高等研究院海共生研究アライアンス長 教授 巽好幸 他	主催
3/15	防災・危機管理人材育成シンポジウム	特別講演：香川大学名誉教授 白木渡、 徳島大学 教授 中野晋 他	主催
3/25	第28回香川地域継続検討協議会	香川大学 教授 長谷川修一 他	主催
3/25	香川地域継続検討協議会 設立８周年記念シンポジウム 「極端気象に備える 地域と企業の連携」	名古屋工業大学大学院 教授 渡辺研司 他	主催

(2) 国際拠点機能の強化

前年度に引き続き国際拠点機能強化の一環として、令和２年１２月 11 日に国際シンポジウム「第５回地震国における減災研究に関する国際シンポジウム」をオンラインで開催しました。シンポジウム終了後、引き続きオンラインで CoDMiS 会議（CoDMiS : Consortium of Disaster Mitigation Science）が開催され、台湾、トルコ、ロシア、ネパールの外国人研究員及び香川大学の研究者の計 12 名が出席しました。金田義行副機構長のプレゼンテーションによる世界の災害、減災科学のアウトラインが紹介されたのち、各国の防災・減災の実情や課題点、コロナ禍での活動状況、今後の CoDMiS 会議の運営方法等について活発な意見交換や提案がなされました。

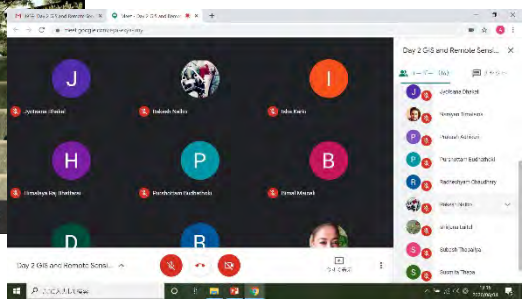
本年度は野々村准教授が８月から９月にかけて(16 日間)オンラインでトリブバン大学付属サマルパンアカデミー危機管理研究所（ICMS Samarpan Academy）の学生に GIS とリモートセンシングの授業を行いました。

また、金田義行副機構長が令和 ２ 年 ９ 月にインドネシアで開催された JRCP International Seminar（オンライン）で「Role of Academic in Local and Regional Disaster Resilience」について招待講演を行いました。

新型コロナ感染禍のため海外から学生の招聘が出来ないことから、本年度実施予定だった JST さくらサイエンスプラン（日本・アジア青少年サイエンス交流事業）に代わり、香川大学主催による海外の学生を対象にしたさくらサイエンスプラン 2021（オンライン講義）が令和３年１月２０日から２６日にかけて実施されました。参加者はインドネシアのバンドン工科大学、台湾の国立中正大学及びネパールのトリブバン大学の学生・若手研究者ら合計 15 名で防災・減災科学教育、文化交流に出席しました。

国際シンポ＆CoDMiS 会議の様子（オンライン開催）@香川大学幸町キャンパス

さくらサイエンス 2021 オンライン講義



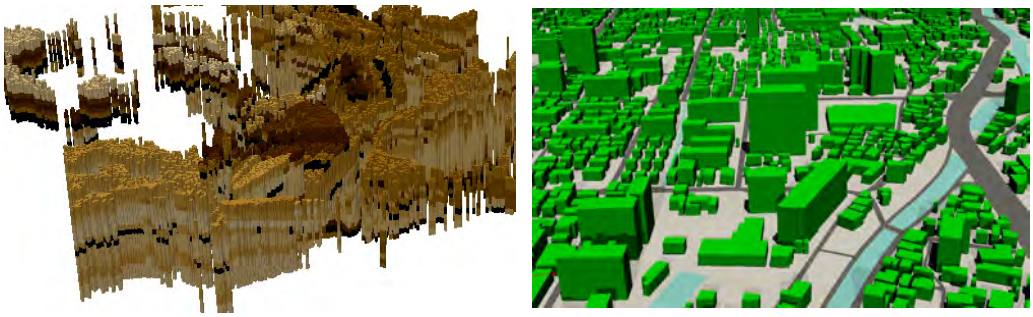
トリブバン大学 ICMS オンライン講義

6.減災に関する研究の推進（減災科学研究部門）

減災科学研究部門では、引き続き、防災・減災に活用できる、詳細な数値シミュレーションを用いた地震被害評価の研究を推進しました。

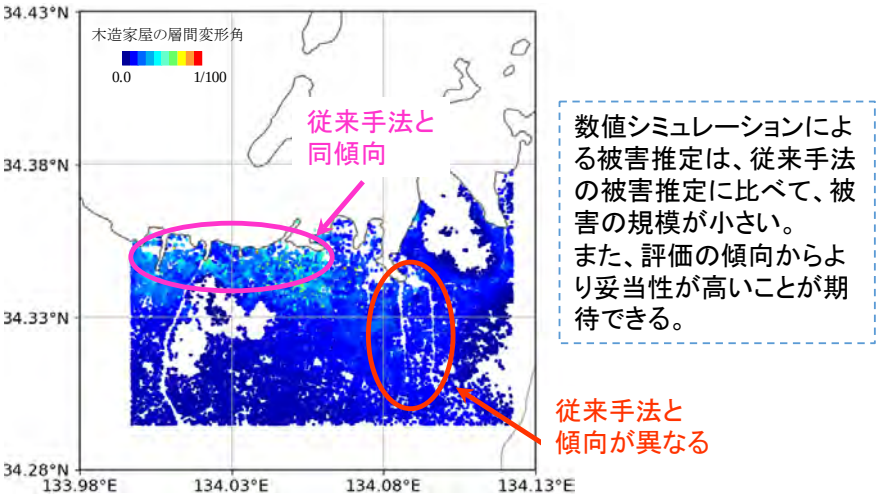
具体的には、高松市の中心市街地を対象に、都市モデル（表層地盤モデル＋建物モデル、図１）を作成し、南海トラフ地震の想定地震動を使用した地震応答評価および地震被害評価を実施しました。また、得られた地震被害評価の結果を香川県が公表している従来手法による地震被害推定と比較して、手法の妥当性や従来手法に対する有効性を議論しました（図 2）。全体的には、従来手法に比べて被害評価が少なくなる結果が出ています。従来手法の傾向と見比べることで、より妥当な評価が期待できるものとなっていることを分析しました。今後の防災マップ作成などに有効に活用できると考えられます。

減災科学研究部門では、上記の検討などを踏まえ、機構の主催するシンポジウムなどでも情報発信を行いました。



表層地盤のモデル例　　建物のモデル例

図 1 都市モデル



数値シミュレーションによる建物被害評価と従来手法との比較

図 2 被害評価結果および分析の例

7.シンポジウム、セミナー等の開催

(1) 子どものためのＰＦＡ研修

香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構主催（以下、危機管理機構）NPO 法人わははネット協力のオンラインセミナーとして、「子どものための PFA 研修（オンライン）」を開催しました。当日は、子育て中の保護者や子育て支援者等、36 名が参加しました。

日時：令和２年５月３日（日）１３:５０～１５:００
会場：Zoom によるオンライン開催
講師: 河嶌譲氏（半蔵門のびすここどもクリニック、DMAT/DPAT 事務局、日本赤十字社医療センター）
池田美樹氏（桜美林大学、DPAT 事務局）
赤坂美幸氏（公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン）

講演では、【感染症状況下における心のサポート~子どものための心理的応急処置~】と題して、
１．子どものストレス反応や行動
２．ストレスを抱えている子どもとのコミュニケーション
３．知っておいてほしいこと（ストレスマネージメント）
について 3 人の講師から講話がありました。

子どもたちがどのような反応を示し、その時に近くにいる保護者や支援者はどう接することで子どもが回復していくか、危機的状況にある人が求めている支援を行う寄り添う支援の大切さ、自分自身の状態を知ることなど多くの支援に関するポイントが得られました。

また、普段の生活に活かすことができる点も多く、災害時だけでなくより多くの人が身に着けておくことが望ましいことを学びました。

緊急開催のオンライン研修会ではありましたが、実際に子どもたちや支援者が抱える悩みを紹介していただける等、分かりやすい内容で聴講者からも好評をいただきました。

今後はこのような研修会に、より多くの方が参加できるような創意工夫やメディア対応に努めてまいります。

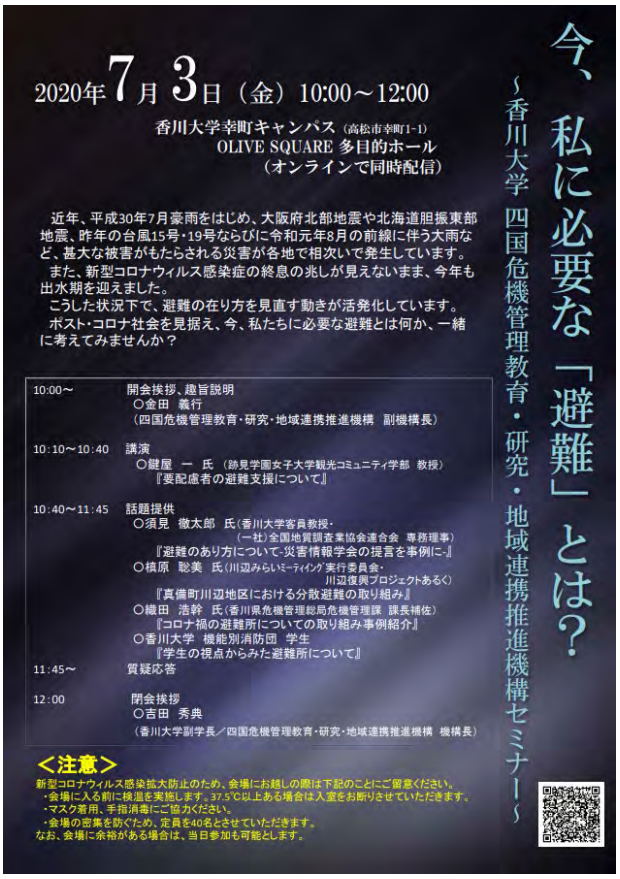
オンライン研修会(PC画面)

(2) 香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構セミナー
～ 私に必要な「避難」とは？ ～

7月3日、香川大学幸町キャンパス OLIVE SQARE 多目的ホールにおいて、危機管理機構主催のセミナー「私に必要な「避難」とは？」を開催しました。

跡見学園女子大学観光コミュニティ学部 教授 鍵屋 一先生に『要配慮者の避難支援について』をご講演いただき、話題提供では、「避難」について４名の方々それぞれの立場から、事例や体験した内容などご発表いただきました。今回のセミナー開催にあたっては、新型コロナウイルス感染症対策として、３密を避ける為、会場聴講者の定員を 40 名とし、zoom を使った web での参加にも対応し、当日は 230 名の方に聴講いただきました。

質問は、会場からはもちろん、web 参加者からの質問を読み上げる形で対応し、難病患者や障害者の避難について、行政との関わりはどうしたかなど、講師ごとに質問に答える時間を設けました。全国のさまざまな方々に聴講いただき、大変盛況な会となりました。



会場の様子

オンライン配信の様子

新型コロナウイルス感染症対策１

新型コロナウイルス感染症対策２

(3) 海洋科学の未来と減災科学シンポジウム

海は私たちに多くの恩恵をもたらしてくれます。また、時として津波のように大きな脅威をともないます。その海に関連した地球科学、防災減災、環境などの諸課題における研究紹介と議論を目的とする「海洋科学の未来と減災科学シンポジウム」を、令和２年８月１９日、香川大学において、オンラインと対面のハイブリット方式で開催しました。海洋研究開発機構、防災科学技術研究所、徳島大学、愛媛大学、高知大学からの研究者および、香川大学からは５名の研究者にご講演いただきました。

広い分野の課題を対象としたため多くの方にご参加いただき、幅広い議論が活発に行われました。

シンポウムのチラシ

シンポジウムの様子

(4) 香川大学 ジオパーク×防災 シンポジウム

令和２年９月 26 日（土）、OLIVE SQUARE 多目的ホールにおいて、「香川大学 ジオパーク×防災シンポジウム」を開催しました（主催：四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構、創造工学部、共催：（一社）四国クリエイト協会、神戸大学高等研究院海共生研究アライアンス、讃岐ジオパーク構想推進準備委員会）。

当シンポジウムは、世界的な災害列島において、大地の変動がもたらす恵みと災いを踏まえたうえで、ジオパークの視点による持続可能な地域づくりついて理解を深めることを目的に以下の内容で開催しました。当日は、感染対策を徹底するため、会場参加人数を制限し、YouTube のライブ配信を行いました。参加者は、会場参加人数 81 人、オンライン視聴者 265 名、計 346 名です。

①趣旨説明　長谷川 修一（香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構　副機構長）
②基調講演１：巽好幸（神戸大学高等研究海共生研究アライアンス長）
「ジオパーク：世界一の「変動帯」日本列島に暮らすということ」
③基調講演２：中川和之（時事通信解説委員、日本地震学会理事）
「大地がもたらす恩恵と災いをジオパークで発見する」
④パネルディスカッション：ジオパークの視点による持続可能な地域づくりと防災
コーディネータ：金田義行(香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構　副機構長)
パネリスト：今岡幹典（讃岐ジオパーク構想推進準備委員会副委員長)、新開得央（株式会社瀬戸内海放送取締役専務執行役員)、高橋司（四国西予ジオパーク推進協議会 事務局長)、野々村敦子（香川大学創造工学部准教授)、吉岡修一（国土交通省四国地方整備局四国山地砂防事務所副所長）

会場でのアンケート回収率は８８％（40 名回答)、オンラインのアンケート回収率は 52%（139 名回答）で、主な意見は以下のとおりです。

・ジオが災害を含めた自然活動等によってもたらされたもので、地域の成り立ちの背景と災害が密接につながっていると感じた。
・「災害の共有」を行うためにもジオパーク構想を推進し、地域住民の災害への危機意識を高める必要がある。
・広く宣伝発進し、オンラインなどで関心のある人々に多数参加して頂くような企画を続けてほしい。

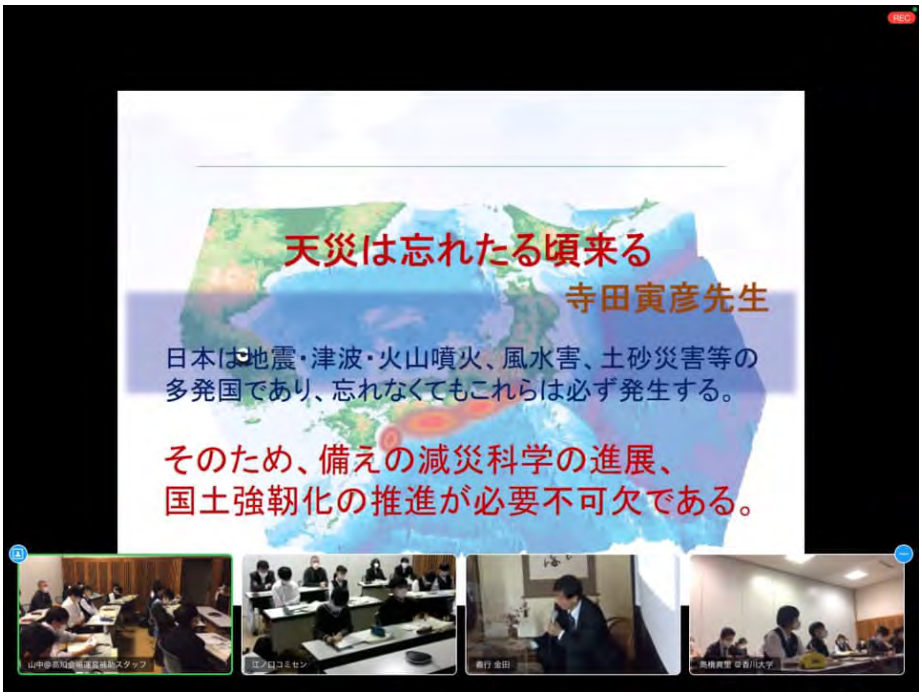
巽好幸先生による基調講演（会場風景）

中川和之先生による基調講演（YouTube 配信）

(5) 高校生高知減災エンス塾

令和 2 年 11 月 14 日に高校生を対象とした高知減災エンス塾を開催し、35 名が参加しました。寺田寅彦記念館にて Zoom によるオンライン配信で実施、本学特任教授の金田義行先生より減災科学研究の推進について話題提供がありました。

「天災は忘れられたる頃来る」とは、高知出身の科学者であり文学者でもある寺田寅彦先生が、自然災害を説く際によく使われた言葉と言われています。歴史の中でたびたび日本を襲ってきた地震や津波。その正体を知り、次にやってくる被害を軽減しようとする研究が懸命に進められています。地震・津波研究を減災に生かすためにはどうしたらいいか、参加者全員で考える良い機会となりました。



(6) 2020 年度 香川大学危機管理シンポジウム

香川大学では、危機管理機構の活動成果を地域に還元し、地域の安全・安心に寄与することを目的として、11 月 27 日（金）にサンポートホール高松にて「新型感染症×南海トラフ地震への備え」をテーマに開催しました。

主催者及び来賓挨拶の後、長谷川危機管理先端教育研究センター長が、機構の重点実施項目に沿って活動状況を報告しました。

＜令和２年度のトピックス＞

① Zoom 等による遠隔講義や実習プログラムの拡充・実施
② ジオパーク×防災シンポジウムの開催
③ 高校生高知減災エンス塾の開催
④ 「四国人財育成塾」立上げのためのシンポジウムの開催
⑤ Web 形式を用いた香川医師会のＪＭＡＴ研修会への参画

挨拶：筧学長

次に基調講演Ⅰでは、講師として香川大学名誉教授で、香川県防災士協会会長である白木　渡氏を招いて、「南海トラフ巨大地震への備え ～With コロナ環境下でのレジリエンスを考える～」をテーマに行いました。

白木名誉教授からは、主に①国土強靭化に関する新展開、②Ｎｅｗ Ｎｏｒｍａｌな社会システムの構築、③個人・地域コミュニティのレジリエンス対応、に関する話題提供がありました。

その中で、白木名誉教授からは、

・オールハザード（あらゆる災害リスク）において「最悪の事態」を想定しておくこと
・レジリエンスとは、最悪の事態を回避できる対処能力のことで、今後は一人でも多くのレジリエンスリーダーを育成しておくこと
・想定を超える事態への即興的な対応力を平時から養っておくこと

の重要性等について、ご講演いただきました。

基調講演Ⅰ：白木名誉教授

次に基調講演Ⅱでは講師として香川大学医学部教授の平尾智広氏を招いて、「災害対応と感染症対策」をテーマに行いました。

平尾教授からは、①災害と感染症のリスクについて、②感染症対策について、③新型感染症について、④新型コロナと避難について、⑤新型コロナの拡大を止めるためには、に関する話題提供がありました。その中で、平尾教授からは、

・マスクは、新型コロナウイルス感染拡大防止にはとても有効
・避難所では、通常の受付の前段階で、新型コロナウイルスの感染が疑われる人を振り分け（前捌き）が必要
・大規模な災害が発生しても機能不全に陥らないためには新型コロナウイルス感染症の患者数を低いレベルに抑制しておく事
・新型コロナウイルスに感染しないためには我々一人ひとりが感染しやすい５つの場面を回避する行動変容が求められている

等について、ご講演いただきました。

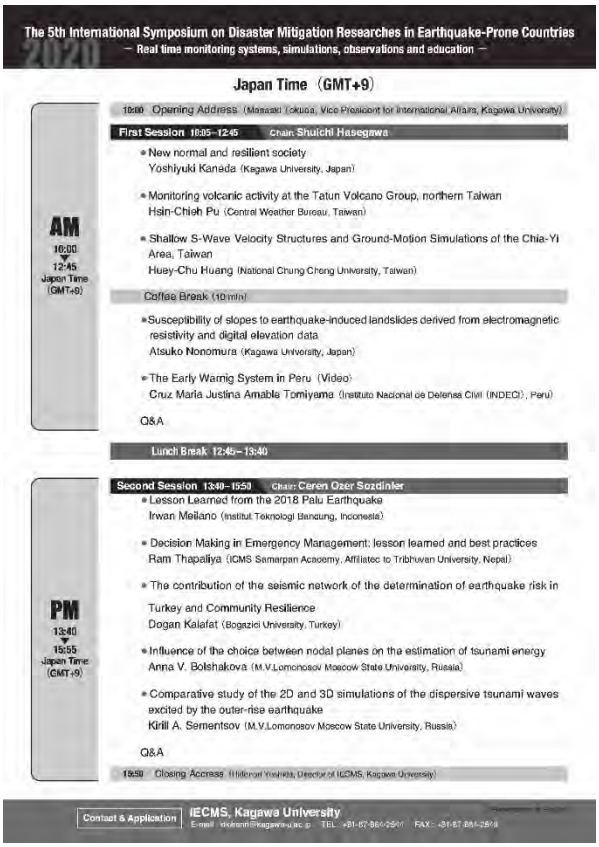
基調講演Ⅱ：平尾教授

オンライン配信状況

(7) 第５回「地震国における減災研究に関する国際シンポジウム」

危機管理機構の重点課題の一つである国際連携活動の一環として海外の地震津波地域（インドネシア、台湾、ネパール、トルコ、ペルー）の大学・行政機関ならびに国内の大学・研究機関による自然災害の被害軽減・強靭化を目的としたシンポジウムを令和２年１２月 11 日に香川大学にてオンライン方式で開催しました。時差の関係もありペルーからはあらかじめ収録したビデオでご発表いただきました。

シンポジウム終了後には海外および香川大の研究者で構成される「ＣｏＤＭｉＳ会議」(CoDMiS:Consortium of Disaster Mitigation Science) がオンライン開催され、それぞれの地域の諸課題に関する情報共有と課題解決に向けた闊達な議論が行われました。



国際シンポジウムのチラシ、プログラム

国際シンポジウム&CoDMiS 会議（オンライン開催）の様子

(8)「四国人財育成塾」立ち上げのためのシンポジウム

2 月 3 日(水)、JR ホテルクレメント高松において、ポストコロナ社会に向け、様々な社会課題に対応できる「人財」の育成を目指す「四国人財育成塾」立ち上げのためのシンポジウムを開催し、会場参加 109 名、Zoom 参加 6 名、YouTube 視聴 329 名の参加がありました。（主催：香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構、共催：香川県、大学コンソーシアム香川）

第 1 部では、前京都大学総長の山極壽一氏から「人類の進化とコロナ後の社会」というテーマで特別講演が行われました。山極氏は、コロナ禍において対面でのコミュニケーションが制約される中、自己肯定感や自己実現感、社会とのつながりが失われやすいことを指摘し、コロナ後の社会では、情報通信機器の賢い利用と五感を通じた交流の両立が必要になると訴えました。

その後、山極氏に加え、香川県の浜田恵造知事、香川大学の筧善行学長の 3 者による特別対談が行われ、2030 年代の社会を見据えて、今後の日本や四国のあり方について意見交換がなされました。コロナ禍において浸透しつつあるワーケーションを引き合いに出し、これからは都市部と地方の行き来がより活発になる可能性が示唆されるとともに、社会人が仕事を続けながら大学で学ぶリカレント教育が広がるような、新しい働き方改革の必要性について意見が交わされました。

第 2 部では、これからの時代を担う世代である学生による話題提供があった後、「哲学思考に基づく、災害を乗り越えるための人財育成」と題して、防災・減災分野や産業分野、災害心理学分野などで活躍する 5 名によるパネル討論が行われた他、当危機管理機構の金田義行特任教授による進行で総合討論が行われ、来年度中に発足を目指している「四国人財育成塾」のスキームや今後の展開について議論がなされました。

特別講演
（山極壽一前京都大学総長）

特別対談

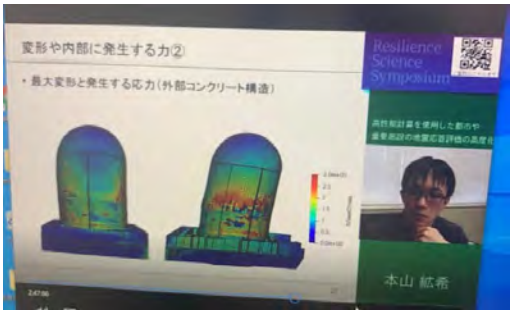
特別対談（筧学長）

総合討論

(9) レジリエンスサイエンスシンポジウム

本シンポジウムでは、「減災科学（レジリエンス・サイエンス）研究部門」の研究発表も兼ねて、今後重要性が高まる減災科学の最先端の取組みについてオンライン講演を行いました。減災研究部門教員の CEREN ÖZER SÖZDINLER 客員准教授が高松市における詳細な地震動応答解析ならびに３次元津波浸水シミュレーションを行い、高松市の地震津波複合災害のハザード評価を行いました。減災研究部門教員の本山紘希客員准教授は高性能計算を使用した都市や重要施設の地震応答評価の高度化について研究成果を発表しました。さらに金田義行副機構長は共災社会に生きる術について講演を行いました。

また本シンポジウムでは４名の危機管理機構の客員教授の先生方にもご発表頂きました。



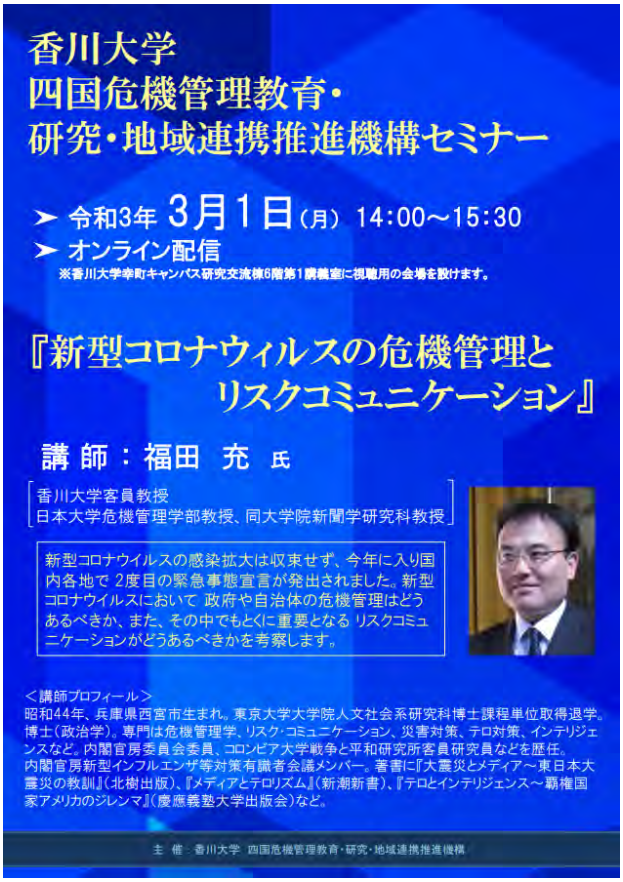
(10) 香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構セミナー
～ 新型コロナウイルスの危機管理とリスクコミュニケーション ～

３月１日(月)、本学客員教授の福田充先生（日本大学危機管理学部教授）を講師にお招きし、「四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構セミナー」を開催しました。福田先生は危機管理学、リスクコミュニケーション、災害対策、テロ対策等を専門としており、この日は「新型コロナウイルスの危機管理とリスクコミュニケーション」というテーマで講演して頂きました。

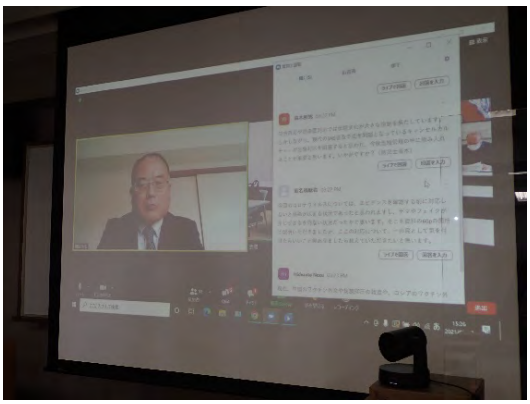
講演では、現代社会は地震や台風などの自然災害、犯罪やテロリズム、ミサイルや戦争・紛争、情報流出やサイバー攻撃、感染症パンデミック等の様々な危機にさらされている「リスク社会」であると説き、こうした破滅的危機全てを対象とする危機管理学として「All Hazard Approach」という概念について説明がありました。

また、危機管理の４機能として①インテリジェンス、②セキュリティ、③ロジスティクス、④リスクコミュニケーションについて解説があった後、新型コロナウイルスへの政府の対応の分析についてご説明がありました。

受講者からは「感染症分野は、リスクマネジメントとしてどういった被害パターンを想定すべきか。」、「今回のコロナウイルスについては、エビデンスを確認する前に対応しないと感染が広まる状況であったと思われ、デマやフェイクが生じざるを得ない状況だったかと思うが、このことついて、一市民として気を付けたらいいこと等はないか。」という質問がありました。



講演の様子



質疑応答

(11)「サヌカイトフォーンによるレクイエム」と「巽好幸先生が語るサヌカイト」

令和 3 年 3 月 11 日にサヌカイト楽器の展示・演奏施設がある坂出市金山の「けいの里」で、「サヌカイトフォーン演奏によるレクイエム」と「巽好幸先生が語るサヌカイト」を開催しました。

当演奏会及び講演会は、東日本大震災から 10 年目に当たる令和 3 年 3 月 11 日に、犠牲者への哀悼、被災者へのねぎらいと関係者への感謝をサヌカイト楽器（地球と人との共創による至宝）の演奏で表し、サヌカイトが日本列島で誕生した訳を知ってもらうことを目的として、以下のように開催しました。当日は、新型コロナウイルス感染症対策として、会場参加者は 42 名に制限し、YouTube のライブ配信を行いました（オンライン視聴者 173 名）。

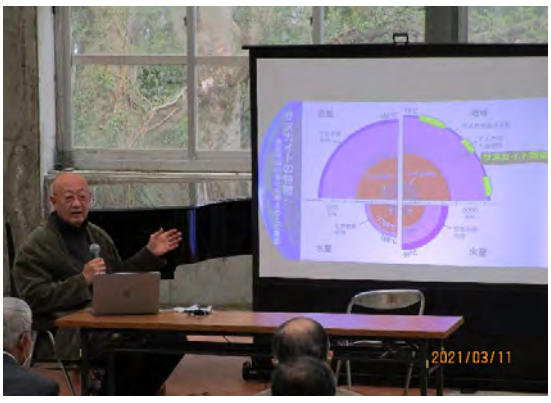
①サヌカイトフォーンと演奏者の紹介　前田 宗一氏（香川県資源研究所理事長）
②サヌカイトフォーン演奏によるレクイエム
　サヌカイト演奏　林 千景氏（藤井学園）、ピアノ演奏　波多 翼氏（香川県立桜井高校）
③講演「日本列島の誕生：サヌカイト、その誕生秘話」
　　巽好幸氏（神戸大学高等研究院海共生研究アライアンス長）

アンケートは、会場で 27 名（回答率 64%）、オンラインで 48 名（回答率 27%）に協力いただきました。主な意見は以下のとおりです。

・会場参加者からサヌカイト演奏は美しい音色で、レクイエムに最適であったとの回答が多く寄せられました。一方、オンライン参加者からは実際に生で聞きたかったという意見がありました。
・講演では、サヌカイトの成因、なぜ良い音がでるのかが理解できた、サヌカイトの持つ意味の大きさに驚いたとの感想もありました。

今回、サヌカイトの演奏を行ったことによって、講演の内容をより深く理解することができたように思われます。真善美といわれますが、真（科学）、善（実学、工学）に美（芸術）の要素を加えることによって、防災・危機管理の関心を高めることができそうだとの感触を得ました。

サヌカイトの演奏



巽好幸先生の講演

(12) 香川地域継続検討協議会設立８周年記念シンポジウム

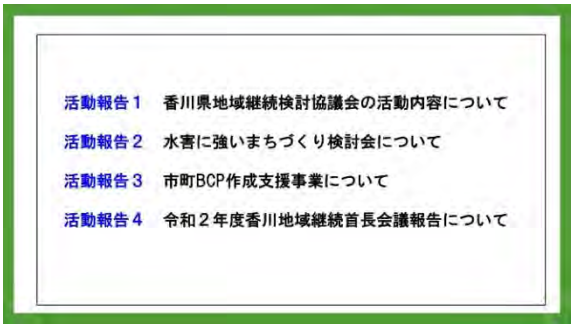
３月 25 日、危機管理機構が事務局を務める香川地域継続検討協議会の設立８周年を記念し「極端気象に備える地域と企業の連携」と題してシンポジウムを開催しました。当シンポジウムは、完全オンライン形式で実施し、YouTube にてライブ配信を行うとともに、学内に視聴用の会場を設けました。（オンライン参加：110 名、会場参加６名）

第１部では、当機構の長谷川・金田両センター長からそれぞれ、香川地域継続検討協議会の取り組みやニューノーマル社会における減災科学の推進について報告がありました。

第２部では、名古屋工業大学大学院の渡辺研司教授から「激甚化・頻発化する風水雪害と官民連携による地域型 BCM の役割」というテーマで基調講演がありました。

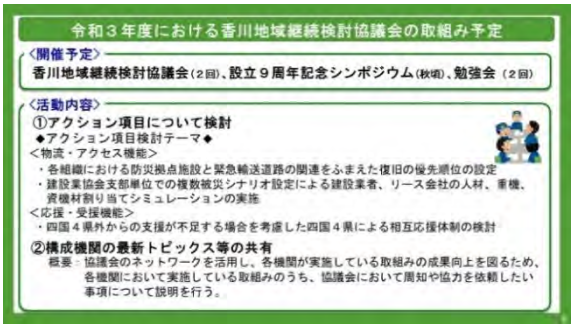
その後は、酒井直樹氏（防災科学技術研究所 水・土砂防災研究部門 総括主任研究員）、堀口真伍氏（株式会社ホリグチ代表取締役／真備船穂商工会青年部監事）、角森博司氏（株式会社フソウ鋼管工場 副工場長）、織田浩幹氏（香川県危機管理総局危機管理課 課長補佐）の４名の方からの話題提供を受け、金田センター長の進行で総合討論が行われました。

参加者からは「水に関して避難を考える場合、地域の地形勾配で流速が異なるので、単純に家屋浸水シミュレーションとリンクさせるのは危険だと思う」等の意見が寄せられる等、活発な意見交換がなされました。



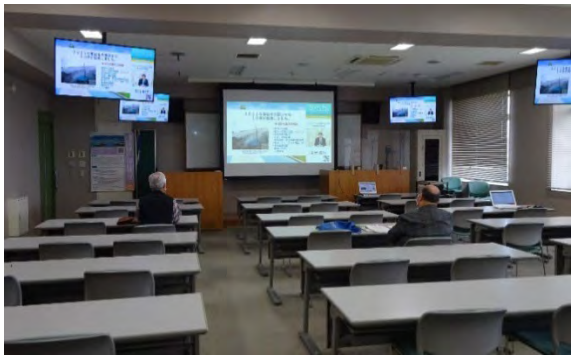
活動報告内容

令和２年度の取り組み状況



今後の取り組み

Youtube 配信画面



会場の様子

総合討論

(13) 平原和朗 地震学講座（後期）
～ 地震学の基礎（地震がわかる）～

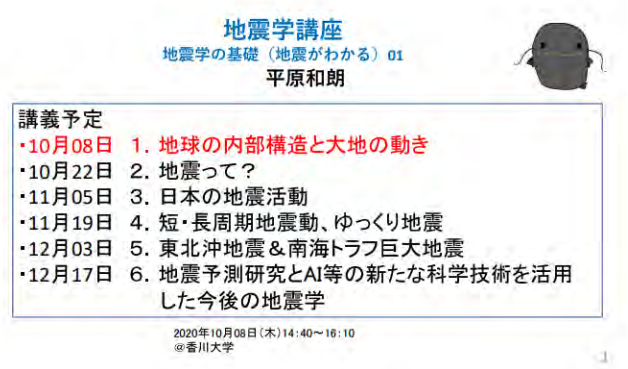
本学客員教授にして、多くの政府委員会の委員や会長を歴任されている平原和朗先生（京都大学名誉教授）をお迎えし、地震学の用語解説や地球の内部構造、地震波の伝わり方といった基本的な内容から、活発化する内陸地震活動と南海トラフ巨大地震との相関関係、更には AI 等の最新の科学技術を活かした今後の地震学の展望といった多岐にわたる内容で講義をしていただきました。

なお、新型コロナウイルスの感染リスクを考慮し、平原先生には京都府の自宅から講義をオンライン配信してもらうとともに、学内に視聴用の会場を設けるハイブリッド方式で実施しました。6 回の講義には延べ 297 名（会場参加：64 名、Web 参加：233 名）が参加し、講義最終日には、全ての講義に参加した 14 名（会場参加 3 名、Web 参加 11 名）に対し、修了証を交付しました。

一般の方を対象とした地震学講座の実施は今年度で 3 年目となりますが、最新の研究や政府委員会の動向などの内容が盛り込まれおり、受講生にとって非常に満足度の高い講座となっています。

第 1 回講座の様子

第 3 回講座の様子



第 6 回 終了証交付

Ⅲ.巻末資料（2020 年度）

1. 研究員実績（社会貢献活動、講演・講義、研究・解説・論文、受賞学術賞）

社会貢献活動（2020年度）①　　**（氏名五十音順）**

	氏 名	内 容
1	荒木裕行	公益社団法人地盤工学会 四国支部 幹事長
2	石塚正秀	リバーカウンセラー 土器川水系 国土交通省四国地方整備局
3	石塚正秀	総合評価地域小委員会 委員 国土交通省四国地方整備局
4	石塚正秀	わがかがわの川懇談会 委員 香川県土木部河川砂防課
5	石塚正秀	香川県環境保健研究センター研究テーマ外部評価委員会 委員 香川県環境森林部
6	石塚正秀	河川・渓流環境アドバイザー会議 アドバイザー 国土交通省四国整備局香川河川国道事務所
7	石塚正秀	土器川総合土砂管理技術会議 オブザーバー 国土交通省四国整備局香川河川国道事務所
8	石塚正秀	水文観測品質管理検討会 委員 国土交通省四国地方整備局
9	石塚正秀	堤防決壊等にかかる調査委員会 委員 国土交通省四国地方整備局
10	石塚正秀	鳥取大学 国際乾燥地研究教育機構(IPDRE)・黄砂問題対応グループ 学外協力者
11	石塚正秀	土器川河床安定化対策技術会議 委員 国土交通省四国地方整備局
12	石塚正秀	鳥取大学 温暖化プロジェクト 協力研究員
13	石塚正秀	土木学会四国支部 幹事長
14	石塚正秀	土木学会水工学委員会 水工学論文編集小委員会 委員（河川環境）
15	石塚正秀	土木学会水工学委員会 環境水理部会 部会員
16	石塚正秀	日本地球惑星連合科学2020年大会Z(JpGU2020)、「ダスト」セッション(日本気象学会共催、日本地球化学会共催)、M-IS(領域外・複数領域-ジョイント)、代表コンビーナ
17	磯打千雅子	国土審議会専門委員
18	磯打千雅子	香川県防災会議委員
19	磯打千雅子	国土交通省四国地方整備局 四国建設業BCP等審査会 審査部会員
20	磯打千雅子	香川県 建設業ＢＣＰ審査会委員
21	磯打千雅子	香川県中小企業BCP優良取組事業所認定制度審査委員
22	磯打千雅子	KSB番組審議会委員
23	磯打千雅子	内閣府 地域防災力向上アドバイザリーボード委員
24	磯打千雅子	内閣官房 国土強靭化民間の取り組み事例集審査委員
25	磯打千雅子	内閣官房 人・コミュニティ・地域のレジリエンス向上研究委員会 委員
26	磯打千雅子	気象庁・国土交通省 洪水及び土砂災害の予報のあり方に関する検討会
27	磯打千雅子	中小企業庁中小企業強靭化法アドバイザリーボード 委員長代理
28	磯打千雅子	岡山県防災アドバイザー
29	磯打千雅子	岡山県地区防災計画等作成推進協議会 アドバイザー
30	磯打千雅子	倉敷市災害に強いまちづくり検討会 委員
31	磯打千雅子	倉敷市都市計画マスタープラン策定委員会 委員
32	磯打千雅子	地区防災計画学会 理事
33	磯打千雅子	日本災害情報学会 企画委員
34	磯打千雅子	土木学会 安全問題研究委員会 委員
35	磯打千雅子	香川県教育委員会 学校防災アドバイザー派遣事業
36	井面仁志	香川県教育委員会 学校防災アドバイザー派遣事業
37	梶谷義雄	香川県立観音寺第一高校、令和二年度FESTAT(SSH全国統計探求発表会)外部アドバイザー
38	梶谷義雄	国立研究開発法人科学技術振興機構：創発的研究支援事業 事前評価 外部専門家、令和2年度
39	梶谷義雄	土木学会・土木計画学研究委員会・学術小委員会委員、平成30年度～
40	金田義行	高知県南海トラフ地震対策推進本部アドバイザー
41	金田義行	三重県地震・津波対策アドバイザー
42	金田義行	徳島県国土強靭化地域計画及び徳島県南海トラフ・活断層地震対策行動計画推進委員会委員
43	金田義行	防災教育チャレンジプラン実行委員会委員
44	金田義行	徳島県復興指針検討委員会委員
45	金田義行	徳島県防災減災・復興アドバイザー
46	金田義行	香川県防災・減災対策アドバイザー
47	金田義行	南海トラフ海底地震津波観測網の整備に関する技術委員会委員(N-net技術委員会)
48	金田義行	宮崎県防災会議地震専門部会 専門委員
49	金田義行	坂出市防災・危機管理アドバイザー
50	金田義行	内閣府総合海洋政策推進事務局 大陸棚延長助言会議構成員
51	金田義行	香川県国土強靭化地域計画に関する有識者会議の委員
52	金田義行	(社)全国地質調査業協会連合会理事

社会貢献活動（2020年度）②　　**（氏名五十音順）**

	氏 名	内 容
53	金田義行	公益社団法人物理探査学会 代議員
54	金田義行	CWB(台湾中央気象局)のアドバイザー
55	金田義行	公益財団法人セコム科学技術振興財団 特定領域研究助成 領域代表者
56	金田義行	人と防災未来センター 上級研究員(非常勤嘱託員)
57	金田義行	東海国立大学機構(所属:名古屋大学減災連携研究センター)招へい教員、客員教授
58	紀伊雅敦	丸亀市 地域公共交通活性化協議会委員
59	紀伊雅敦	観音寺市都市計画マスタープラン及び立地適正化計画策定委員会
60	紀伊雅敦	丸亀市 都市計画審議会委員
61	紀伊雅敦	観音寺市 スマートIC地区協議会委員
62	紀伊雅敦	高松市 都市計画道路網検討委員会委員
63	紀伊雅敦	高松市 総合都市交通計画推進協議会委員
64	紀伊雅敦	高松市都市計画審議会
65	紀伊雅敦	高松市生活道路審議会
66	紀伊雅敦	高松市 高松サンポート地区都市再生検討委員会委員
67	紀伊雅敦	三豊市地域公共交通活性化協議会委員
68	紀伊雅敦	高松市 中心市街地活性化協議会委員
69	紀伊雅敦	四国地方整備局 四国地方整備局事業評価監視委員会委員
70	紀伊雅敦	香川県 高松広域都市圏都市交通マスタープランフォローアップ委員会委員
71	紀伊雅敦	高松市入札監視委員会委員
72	紀伊雅敦	香川県，坂出市 高松港・坂出港 長期構想検討委員会
73	紀伊雅敦	西日本貿易インフラの整備・運営を考える委員会
74	紀伊雅敦	香川県，㈱エイト日本技術開発高松支店 琴電連立検討委員会
75	紀伊雅敦	さぬき市立地適正検討委員
76	紀伊雅敦	さぬき市都市計画審議会臨時委員
77	紀伊雅敦	四国地方整備局 四国の港湾における地震・津波対策検討会議
78	紀伊雅敦	四国地方整備局 四国地方整備局道路協力団体指定員会委員
79	紀伊雅敦	国土交通省四国地方整備局 香川河川国道事務局香川県渋滞対策協議会委員
80	紀伊雅敦	善通寺市都市計画マスタープラン策定委員会
81	紀伊雅敦	国土省四国地方整備局 四国港湾ビジョン検討委員会及び四国港湾ビジョン検討WG委員
82	紀伊雅敦	国土交通省四国地方整備局 四国地方整備局総合評価委員会委員
83	紀伊雅敦	さぬき市 地域公共交通活性化協議会委員
84	紀伊雅敦	土木計画学研究委員会・学術小委員会, 幹事長
85	紀伊雅敦	東京大学生産技術研究所 NEDO事業に係る検討委員会 委員
86	紀伊雅敦	令和2年度土木学会四国支部 技術発表会実行委員会委員
87	紀伊雅敦	World Conference for Transport Research Society, Chair, SIG-F1b, WCTRS, Chair, SIG-F1b
88	紀伊雅敦	Expert reviewer for Second Order Draft of Working Group III,IPCC AR6
89	Ozer Sozdinler Ceren	UNESCO NEAM Wave21presentation in ERCC企画 最終会議：オンライン参加 (UNESCO委員)
90	Ozer Sozdinler Ceren	UNESCO-NEAMTWS 会議：オンライン参加 (UNESCO委員)
91	末永慶寛	香川県公共事業評価委員会 委員
92	末永慶寛	まんのう町 満濃池周辺地域整備計画検討委員会 委員長
93	末永慶寛	香川大学かがわ里海大学講師
94	末永慶寛	香川県環境審議会 委員
95	末永慶寛	大崎上島における漁場再生技術検討委員会、一般社団法人大阪湾環境再生研究・国際人材育成コンソーシアム・コア
96	末永慶寛	環境省中央環境審議会水環境部会瀬戸内海環境保全小委員会 委員
97	末永慶寛	香川県立桜井高等学校外部評価委員会 委員
98	末永慶寛	香川県立高松北中学校・高等学校「地域との協働による高等学校教育改革事業」 委員
99	末永慶寛	土木学会四国支部土木遺産選考委員会 委員
100	末永慶寛	Board Director, PACON International
101	末永慶寛	日本水産工学会評議会 評議委員
102	末永慶寛	日本沿岸域学会，論文編集委員会 査読委員
103	末永慶寛	Member of the Editorial Committee on RAMST, PACON International
104	末永慶寛	生態工学会，論文編集委員会 査読委員
105	末永慶寛	土木学会四国支部，四国支部長賞表彰委員会 委員
106	高橋亨輔	香川地域継続検討協議会，構成員
107	高橋亨輔	土器川における水害に強いまちづくり検討会 委員

社会貢献活動（2020年度）③　　**（氏名五十音順）**

	氏 名	内 容
108	高橋亨輔	香川県教育委員会 学校防災アドバイザー派遣事業
109	高橋真里	香川県教育委員会 学校防災アドバイザー派遣事業
110	竹之内健介	近畿地方環境事務所,「気候変動適応近畿広域協議会の分科会(ゲリラ豪雨対策分科会)」副座長
111	竹之内健介	福知山市,「福知山市避難のあり方検討会」委員
112	竹之内健介	福井県大野市, 防災アドバイザー
113	竹之内健介	日本自然災害学会自然災害科学編集委員, 日本自然災害学会
114	竹之内健介	日本災害情報学会企画委員, 日本災害情報学会
115	竹之内健介	日本災害情報学会廣井賞表彰審査委員, 日本災害情報学会
116	竹之内健介	日本自然災害学会学術講演部会委員, 日本自然災害学会
117	玉置哲也	まんのう町カーボン・マネジメント強化委員，委員長
118	玉置哲也	四国地方整備局総合評価委員会
119	玉置哲也	土木学会四国支部技術発表会，実行委員
120	玉置哲也	土木学会学会誌編集委員会，委員
121	玉置哲也	日本オペレーションズ・リサーチ学会 中国・四国支部，運営委員
122	玉置哲也	第39回日本自然災害学会オープンフォーラム，座長
123	寺尾　徹	香川県環境審議会委員・同生活環境部会委員
124	野々村敦子	香川県教育委員会 学校防災アドバイザー派遣事業
125	萩池昌信	香川県教育委員会 学校防災アドバイザー派遣事業
126	長谷川修一	(公社)土木学会四国支部四国地域緊急災害調査委員会幹事
127	長谷川修一	(公社)土木学会四国支部四国ブロック南海地震研究委員会幹事
128	長谷川修一	(一社)日本応用地質学会顧問、地域貢献と魅力発信特別委員会委員長
129	長谷川修一	(公社)地盤工学会四国支部顧問
130	長谷川修一	香川県立高松北高等学校学校評議員
131	平尾智広	日本災害医学会災害調査評価委員会 委員
132	平尾智広	日本公衆衛生学会 代議員
133	平尾智広	日本衛生学会 代議員
134	平尾智広	国際緊急援助隊医療チーム総合調整部会 アドバイザー
135	平尾智広	高松市健康危機管理連絡会 委員
136	平尾智広	高松市新型インフルエンザ等対策会議 委員
137	平尾智広	高松市健康づくり懇談会 委員
138	平尾智広	香川県健康づくり審議会 委員
139	平尾智広	香川県環境審議会 委員
140	平尾智広	香川県感染症発生動向調査委員会 委員
141	平尾智広	香川県食の安全推進懇談会 会長
142	平尾智広	香川県公害審査会 審査員候補者
143	藤澤一仁	香川県自主防災活動アドバイザー
144	藤澤一仁	香川県教育委員会 学校防災アドバイザー派遣事業
145	藤澤一仁	香川県自主防災組織広域化促進事業補助金審査会委員
146	藤澤一仁	香川県建設業ＢＣＰ審査会委員
147	藤目浩二	香川県教育委員会 学校防災アドバイザー派遣事業
148	松本秀應	(一社)四国クリエイト協会 四国建設ケースメソッド普及委員会 委員
149	松本秀應	国土交通省 香川河川国道事務所 水害に強いまちづくり協議会 委員
150	松本秀應	香川県教育委員会 学校防災アドバイザー派遣事業
151	吉田秀典	香川県教育委員会，香川県教育施策推進協議会委員
152	吉田秀典	香川県教育委員会，県立高校の魅力化に関する協議会委員
153	吉田秀典	香川県教育委員会，小・中学校における新しい指導体制の在り方検討委員会委員
154	吉田秀典	経済産業省，中国四国鉱山保安協議会四国部会長
155	吉田秀典	一般財団法人フソウ技術開発振興基金　理事・選考委員
156	吉田秀典	かがわ里海協議会　副会長
157	吉田秀典	国土交通省四国地方整備局，新技術評価委員会委員
158	吉田秀典	国土交通省四国地方整備局，業務分会委員
159	吉田秀典	公益社団法人土木学会四国支部，土木学会四国支部　支部長
160	吉田秀典	公益社団法人土木学会，岩盤力学改訂版編集小委員会委員
161	吉田秀典	日本計算数理工学会，理事
162	吉田秀典	公益社団法人土木学会，応用力学委員会委員

講演・講義（2020年度）①　　**（氏名五十音順）**

	開催日	講師等	内 容	依頼先等
1	令和2年 8月19日	石塚正秀	「高松市の河川を流れるマイクロプラスチックの調査と水環境課題」講師	第2回海洋科学の未来と減災科学シンポジウム
2	8月	石塚正秀	かがわ里海大学2020 講師 川と海のつながり体験講座	かがわ里海大学協議会
3	令和2年 6月8日	磯打千雅子	ＮＨＫ「明日へつなげよう」への出演及び取材協力	ＮＨＫ制作局第二ユニット
4	6月17日	磯打千雅子	防災・福祉共演会開催に伴う講師	丸亀市城北コミュニティセンター
5	7月26日	磯打千雅子	三谷町防災計画策定に係る防災講演会講師	三谷地区コミュニティ協議会
6	7月26日	磯打千雅子	地域防災マップの改定作業のアドバイス	木太町自主防災連合会
7	11月19日	磯打千雅子	第22回都市防災推進セミナー講師 (オンラインセミナーとして収録への参加)	公益社団法人 全国市有物件災害共済会
8	11月21日	磯打千雅子	倉敷市天城学区の防災講演会講師	倉敷市天城学区コミュニティ協議会
9	12月4日	磯打千雅子	東京都北区第2回北区水防災シンポジウム講演講師及びパネリスト	東京都北区危機管理室
10	12月16日	磯打千雅子	令和2年度中四国地区青少年教育施設連絡協議会職員研修会 講師	独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立吉備青少年自然の家
11	12月20日	磯打千雅子	「令和2年度岡山県自主防災組織リーダー研修会」 講師	岡山県危機管理課
12	令和3年 1月7日	磯打千雅子	「令和2年度岡山県防災・福祉対応力研修」 講師①	公益社団法人　岡山県社会福祉会
13	1月20日	磯打千雅子	岡山県 知事と一緒に生き活きトークへの出席	岡山県危機管理課
14	1月25日	磯打千雅子	「令和2年度岡山県防災・福祉対応力研修」 講師②	公益社団法人　岡山県社会福祉会
15	1月28日	磯打千雅子	「令和2年度岡山県防災・福祉対応力研修」 講師③	公益社団法人　岡山県社会福祉会
16	2月15日	磯打千雅子	地域活動のファシリテーションに関するインタビュー調査の協力	國土防災技術(株)
17	2月17日	磯打千雅子	丸亀市民生委員・児童委員ブロック別研修会講師	丸亀市民生委員児童委員協議会連合会
18	2月19日	磯打千雅子	高松地方裁判所 令和2年度防災研修 講師	高松地方裁判所
19	2月27日	磯打千雅子	香川県防災士会中讃支部 研修会 講師	香川県防災士会中讃支部
20	3月19日	磯打千雅子	「令和2年度岡山県防災・福祉対応力研修」 講師④	公益社団法人 岡山県社会福祉会
21	令和2年	磯打千雅子	愛知大学中部地方産業研究所「BCP研究」中間報告会のコメンテーター	愛知大学中部地方産業研究所
22	令和2年 7月4日	金田義行	真備サツキPROJECTアパートでの講演	真備サツキPROJECT
23	7月13日	金田義行	Offshore Real-Time Monitoring System and Its Application to Disaster Resilience(オンライン講演)	JpGU-AGU Joint Meeting 2020（CTBT IMS Technologiesセッション）
24	8月8日	金田義行	第8回香川県高校生科学研究発表会の審査員	香川県教育委員会事務局
25	8月19日	金田義行	第2回海洋科学の未来と減災科学シンポジウムの座長	香川大学
26	9月9日	金田義行	持続可能な地域創造研究会で講演「最新の減災科学について」（オンライン）	持続可能な地域創造研究会
27	9月18日	金田義行	高知県地震防災研究会2020年度講演会 講師「南海トラフ巨大地震研究の最前線 ー減災に向けた理工学と社会科学の融合ー」	高知県地震防災研究会
28	9月23日	金田義行	International Seminar (インドネシア)(オンライン)での講演&パネリスト "Role of Academic in Local and Regional Disaster Resilience"	West Java Resilience Culture Province(JRCP)
29	9月26日	金田義行	ジオパーク×防災シンポジウム パネルディスカッションのコーディネーター	香川大学
30	10月5日	金田義行	防災学習の講義、助言・指導（4年、6年）	中土佐町立久礼小学校
31	10月8日～ 11月2日	金田義行	第56回日本腹部救急医学会総会での講演（ビデオ） 「特別講演2 南海トラフ地震に備えて」	第56回日本腹部救急医学会総会
32	10月15日	金田義行	小豆島町危機管理研修プログラムの講演	小豆島町
33	10月20日	金田義行	アバンフォーラムonlineレクチャのコメンテータ	アバンフォーラム
34	10月23日	金田義行	第4回徳島Ｗｅｂ防災セミナー講師	徳島大学環境防災研究センター 徳島県とくしまゼロ作戦課主催
35	10月29日	金田義行	「総合的な学習の時間指導法」講座で防災に関する講義	高知大学教育学部
36	11月4日	金田義行	減災科学シンポジウム2020基調講演、トークセッションの講師	徳島文理大学
37	11月5日	金田義行	社会福祉協議会主催の講演会 講師	財田地区社会福祉協議会
38	11月13日	金田義行	企業内研修 講師	(株)第一コンサルタンツ(高知市)
39	11月14日	金田義行	第6回高校生高知減災エンス塾 話題提供	香川大学
40	11月29日	金田義行 高橋真里	高松市立屋島西小学校防災教室	高松市立屋島西小学校
41	12月7日	金田義行	高知市立昭和小学校で講和（3､4年生対象）	高知市立昭和小学校
42	12月10日	金田義行	高松市防災啓発展『ぼうさいまちカフェ』講師	高松市
43	12月11日	金田義行	The 5th International Symposium on Disaster Mitigation Researches in Earthquake-Prone Countries−Real time monitoring systems, simulations, observations and education(オンライン)で 講演 "New normal and resilient society"	香川大学
44	12月11日	金田義行	CoDMiS会議（CoDMiS：Consortium of Disaster Mitigation Science）の司会進行（オンライン）	香川大学
45	12月12日	金田義行	Disaster-Resistant Sustainable Cities online panel(トルコ) 「都市計画と防災減災と今後予想されるマルマラ海での津波被害」 講師	JCI Istanbul
46	令和3年 1月20日	金田義行	さくらサイエンスプラン2021（オンライン）講義 New normal and resilient society	香川大学
47	2月3日	金田義行	「四国人財育成塾」立ち上げのためのシンポジウムーポストコロナ社会と共災社会を踏まえた四国版ニューノーマルを考えるー パネル討論及び総合討論の進行	香川大学
48	2月9日	金田義行	ＮＥＣの講演（オンライン）	ＮＥＣ
49	2月13日	金田義行	「四国から海洋プラスチックの未来を考える～「プラスチック・スマート」シンポジウム～」 特別メッセージ＆パネルディスカッションに参加	環境省推進プロジェクト
50	2月15日	金田義行	高知市立昭和小学校校内研修 講師（5年生対象）	高知市立昭和小学校
51	2月18日	金田義行	レジリエンスサイエンスシンポジウム 講師「共災社会に生きる術」	香川大学
52	2月24日～ 3月24日	金田義行	愛媛県防災啓発研修 講師 (愛媛県の公式YouTubeチャンネルで公開)	一般社団法人 消防防災科学センター 愛媛県県民環境部防災局防災危機管理課

講演・講義（2020年度）②　　**（氏名五十音順）**

	開催日	講師等	内 容	依頼先等
53	令和2年 10月22日	紀伊 雅敦	「コンパクト・プラス・ネットワーク ～交通・土地利用・新型コロナ対応について」講師	第72回都市計画全国大会基調講演
54	令和2年 11月3日	黒田泰弘	ＪＭＡＴ香川隊員養成研修会企画	ＪＭＡＴ香川隊員養成研修会
55	12月14日	黒田泰弘	転ばぬ先の災害医療ミーティング（WEBセミナー） 座長	
56	令和2年	Ozer Sozdinler	International Symposium　第2部座長	International Symposium
57	令和3年 1月28日	Ozer Sozdinler	ぼうさいまちカフェ講師「トルコの津波研究者と語ろう」	高松市
58	2月18日	Ozer Sozdinler	レジリエンスサイエンスシンポジウム講師「高松市の津波リスクを再認識」	香川大学
59	令和2年 8月19日	末永慶寛	海洋科学の未来と減災シンポジウム講師	香川大学
60	8月	末永慶寛	公開講座「かがわ里海大学」講師	高松市
61	令和3年 3月	末永慶寛	さぬきっ子安全安心ネット指導員研修会講師	香川県教育委員会
62	令和2年 9月2日	高橋真里	令和2年度リーダー研修会及び育成社研修会の講師	恩賜財団母子愛育会香川県支部
63	11月1日	高橋真里	松崎連合防災会研修会講師	三豊市松崎連合防災会
64	11月9,10日	高橋真里	令和2年度災害ボランティアセンター運営者養成研修 講師	香川県社会福祉協議会
65	11月11日	高橋真里	令和2年度中讃東圏域地域自立支援協議会日中活動部会研修 講師	中讃東圏域地域自立支援協議会
66	11月21日	高橋真里	災害ボランティア関係講座の講師	高松市男女共同参画・協働推進課
67	12月1日	高橋真里	令和２年度さぬき市老人クラブ連合会活性化研修会 講師	さぬき市老人クラブ連合会
68	12月25日	高橋真里	令和2年度学校安全管理研修会講師	高松市教育委員会
69	12月26日	高橋真里	2020年第1回排泄サポートセミナー講師	さぬき市老人クラブ連合会
70	令和3年 1月16日	高橋真里	愛媛県社会福祉協議会「令和2年度住民参加による防災推進研修会」講師	愛媛県社会福祉協議会
71	1月19日	高橋真里	静岡県精神保健福祉センター「令和2年度災害時メンタルヘルスケア講演会」講師	静岡県精神保健福祉センター
72	2月14日	高橋真里	観音寺市愛育会「子育て講演会」講師	観音寺市愛育会
73	2月24日	高橋真里	善通寺市健康推進員連合会研修会 講師	善通寺市健康推進員連合会
74	2月25日	高橋真里	防災教育研究会かがわ 実践的災害対策勉強会 講師	防災教育研究会かがわ
75	令和2年 12月	竹之内健介	避難行動タイムライン～これからの水害に立ち向かうために～	京都府災害時声掛け人材養成研修 （園部総合庁舎）
76	12月	竹之内健介	避難行動タイムライン～これからの水害に立ち向かうために～	京都府災害時声掛け人材養成研修 （木津川市役所）
77	令和3年 3月	竹之内健介	我が家は大丈夫？水害時の避難ルール最前線	高松市ぼうさいまちカフェ
78	3月	竹之内健介	令和元年東日本台風における住民の災害対応の特徴と時間変化に基づく行動分類	第39回日本自然災害学会学術講演会
79	3月	竹之内健介	新型コロナウィルスが将来の災害時避難に与える影響に対する地区防災計画の役割	第7回地区防災計画学会
80	令和3年 2月18日	寺尾 徹	GPM降水量プロダクトを用いたインド亜大陸北東部における降水過程の研究	第23回環境リモートセンシングシンポジウム
81	2月27日	寺尾 徹	Roles of the Bay of Bengal in the process of the Asian monsoon onset	IAEG Bangladesh National Group Jahangirnagar University
82	3月23日	寺尾 徹	The focus of the AsiaPEX project and Asian monsoon onset mechanisms	Meteorological seminar course or the Yonsei University
83	令和3年 1月26日	萩池昌信	徳島文理大学「災害トリアージ実習」講師	徳島文理大学保健福祉学部
84	3月9日	萩池昌信	高松市防災啓発展『ぼうさいまちカフェ』講師	高松市
85	令和2年 6月17日	長谷川修一	大地の成り立ちから地域の強みと弱みを考えよう	令和2年度第12回かんおんじ市民大学
86	7月31日	長谷川修一	地形と地質がわかれば地域は10倍面白くなる	丸亀市飯山南コニュニティーセンター長寿セミナー
87	8月8日,29日	長谷川修一	フィールドワークに出かけてみよう	香川県教育委員会「高校生のための瀬戸内アートサマープログラム」
88	9月5日	長谷川修一	香川県の地理	令和2年度「香川瀬戸内地域通訳士」認定研修
89	9月15日	長谷川修一	松山自動車道双海地区の地すべりを探る	西日本高速道路エンジにリング四国若手技術者土工研修
90	9月25日	長谷川修一	北高周辺の防災マップを見直そう	高松北高等学校分野別講演会
91	10月3日	長谷川修一	讃岐と備讃瀬戸をユネスコ世界ジオパークに	放送大学香川学習センター公開講演会
92	10月5日	長谷川修一	地域の災害特性を知ろう	香川大学東かがわサテライトセミナー
93	10月6日	長谷川修一	讃岐をユネスコ世界ジオパークに	かがわ健康福祉財団「かがわ長寿大学」
94	10月7日	長谷川修一	コロナ禍における複合災害への対応と事業継続	香川県経営者協会令和2年度第2回理事会・講演会
95	10月7日	長谷川修一	地形と地質がわかれば地域は10倍面白くなる	香川県観光協会「さぬきアカデミー」
96	10月8日	長谷川修一	四国・愛媛県の地形と地質	愛媛大学社会基盤メインテナンスエキスパート養成講座
97	10月9日	長谷川修一	令和2年度せとうち島旅ガイドスキル強化研修	
98	10月27日	長谷川修一	災害列島を逆手にとって暮らす覚悟	日本エネルギー学会第57回石炭科学会議特別講演
99	11月12日	長谷川修一	ジオパークの視点から四国の社会資本のなぜを考える	土木学会建設マネジメント研究会「地域シンポジウム四国」
100	12月8日	長谷川修一	地形と地質から見た瀬戸内海の成り立ちと特徴，瀬戸内海会議	瀬戸内海の環境保全・創造研究ワークショップ
101	12月17日	長谷川修一	讃岐をユネスコ世界ジオパークに	かがわ健康福祉財団「かがわ長寿大学」
102	12月25日	長谷川修一	香川の「ジオ教材」フィールドワークプログラム（PartIX）	香川県教育センター
103	令和3年 1月20日	長谷川修一	讃岐ジオパーク構想による地方創生	香川大学三木サテライトセミナー
104	1月27日	長谷川修一	激甚化・頻発化する自然災害にどう備えるか～土砂災害のメカニズムと危機回避に向けて予測手法開発の現状を知る～	建通新聞社「地盤災害の脅威と対策」に関するセミナー
105	2月23日	長谷川修一	讃岐ジオパーク構想	高松市歴史資料館「讃岐村塾」

講演・講義（2020年度）③　　（氏名五十音順）

	開催日	講師等	内 容	依頼先等
106	令和2年6月7日	平尾智広	四国新聞「健康新聞 新型コロナ～長期戦の心得」取材	四国新聞社
107	7月9日	平尾智広	高松市防災啓発展『ぼうさいまちカフェ』講師	高松市
108	7月19日	平尾智広	メンタルヘルスアップ・リーダー養成講座（牟礼地区） 企画・講師	香川大学
109	9月6日	平尾智広	メンタルヘルスアップ・リーダー養成講座（香西地区） 企画・講師	香川大学
110	9月13日	平尾智広	令和2年度防災士会四国支部連絡協議会研修会「感染症流行下における避難・避難所運営について」講師	日本防災士会四国支部連絡協議会
111	10月28日	平尾智広	香川大学出前講座「人にやさしい働き方」講師	香川大学
112	11月3日	平尾智広	JMAT養成講習会 企画・講師	香川県医師会
113	10月30日	平尾智広	港湾労災防止協会、四国地区安全衛生セミナー「職場における新型コロナウイルス感染症予防対策」講師	港湾貨物運送事業労働災害防止協会
114	11月23日	平尾智広	香川県医学会2020市民公開講座「新型コロナウイルス感染症～コロナ時代を生きる～」講師	香川県医師会
115	11月25日	平尾智広	新型コロナウイルス等感染症対策研修会「老人福祉施設における新型コロナウイルス等感染症対策について」講師	香川県老人福祉施設協議会
116	令和3年1月13日	平尾智広	防災志スキルアップ講座「災害時におけるメンタルヘルスケア」講師	香川県婦人会
117	2月13日	平尾智広	メンタルヘルスアップ・交流集会 企画・講師	香川大学
118	2月22日	平尾智広	西日本放送ラジオ取材	RNC
119	3月17日	平尾智広	自殺予防研修会「自殺予防の知識編とコロナ禍のメンタルヘルス」	さぬき市津田民生委員児童委員
120	令和2年10月	藤澤一仁	法と防災について（小豆島町危機管理当研修プログラム）	小豆島町
121	10月	藤澤一仁	ＤＩＧ訓練(小豆島町危機管理当研修プログラム)	小豆島町
122	11月17日	藤澤一仁	香川県農業試験場 安全・衛生委員会支援事業の講演講師	香川県農業試験場
123	11月	藤澤一仁	出前講義「危機管理対応力」	香川県農業試験場
124	11月	藤澤一仁	ライフライン・交通インフラの確保（防災士養成講座）	香川大学
125	令和3年2月	藤澤一仁	災害対策本部運営訓練（小豆島町危機管理当研修プログラム）	小豆島町
126	令和2年6月26日	藤目浩二	高松市防災啓発展『ぼうさいまちカフェ』講師	高松市
127	10月22日	藤目浩二	小豆島町危機管理等研修プログラムへの協力	小豆島町
128	11月29日	藤目浩二	屋島西小学校防災教室への協力	屋島西小学校
129	令和3年2月22日	藤目浩二	小豆島町災害対策本部運営訓練(図上訓練)への協力	小豆島町
130	令和2年7月	松本秀應	建設ケースメソッド(模擬研修)、講師	四国地方整備局
131	8月	松本秀應	消防学校で開催、実演説明者	香川県総合防災訓練(多度津町)
132	10月	松本秀應	役場係長向け研修「小豆島におけるリスクマネジメント」講師	小豆島町危機管理研修
133	11月	松本秀應	「災害から子どもと自分を守るための備えと対策について」講師	東かがわ市ファミリー・サポート・センタースキルアップ研修会
134	11月	松本秀應	防災力向上講座「自分の身近なひとの命を守る！」講師	さぬき市
135	11月	松本秀應	建設ケースメソッド研修 講師(課長級)	四国地方整備局
136	12月18日	松本秀應	出前講座 講師「高校生や大学生は災害対応の貴重な担い手」	香川県立三木高等学校
137	12月25日	松本秀應	令和2年度学校安全管理研修会講師	高松市教育委員会
138	12月	松本秀應	「令和元年度河川維持管理技術者講習会」、ファシリテーター	(一財)河川技術者教育振興機構
139	12月	松本秀應	「各校の避難訓練をより実践的なものとするには」講師	高松市、令和２年度学校安全管理研修会（小中高校）
140	12月	松本秀應	「各校の避難訓練をより実践的なものとするには」講師	高松市、令和２年度学校安全管理研修会（幼保子ども園）
141	令和3年1月	松本秀應	さくらサイエンス 講師「ローテク防災術」	香川大学
142	2月22日	松本秀應	令和2年度小豆島町危機管理等プログラム(総括) 講師	小豆島町
143	2月	松本秀應	「災害から自分と家族を守るための備えと対策について」講師	東かがわ市、防災ボランティアスキルアップ講座
144	令和2年5月	吉田秀典	廃棄材を混和したポーラスコンコンクリートの物性ならびに植生に関する研究	(公社)土木学会・2020年度四国支部第26回技術研究発表会
145	5月	吉田秀典	籾殻による重金属吸着およびその後の再利用に関する研究	(公社)土木学会・2020年度四国支部第27回技術研究発表会
146	5月	吉田秀典	コンクリート内部の不均一性が超音波伝播性状に与える影響	(公社)土木学会・2020年度四国支部第28回技術研究発表会
147	5月	吉田秀典	セメント改良土からの六価クロム溶出低減に関する研究	(公社)土木学会・2020年度四国支部第29回技術研究発表会
148	5月	吉田秀典	浸水域の事前認知が避難行動に与える影響に関する研究	第23回応用力学シンポジウム
149	5月	吉田秀典	洪水解析に基づくため池周辺の家屋被害の推定	第23回応用力学シンポジウム
150	7月	吉田秀典	加工籾殻における重金属の吸着特性に関する研究	第55回地盤工学研究発表会
151	9月	吉田秀典	電気泳動法とゼオライトを用いた土壌からのCs抽出と吸着における電解溶液の選択に関する研究	第9回環境放射能除染研究発表会
152	9月	吉田秀典	廃シロップ添加がセメント改良土の強度および六価クロム溶出特性に及ぼす影響	土木学会全国大会第75回年次学術講演会
153	9月	吉田秀典	電解質として酢酸カリウム溶液を用いた電気泳動法による土壌からのセシウム除去に関する研究	土木学会全国大会第76回年次学術講演会
154	9月	吉田秀典	高潮浸水を考慮した避難行動シミュレーションに基づく避難場所の有効性に関する研究	土木学会全国大会第77回年次学術講演会
155	10月13日	吉田秀典	高松市防災啓発展『ぼうさいまちカフェ』講師	高松市
156	11月	吉田秀典	殻による重金属吸着ならびに吸着済籾殻の再利用方法の検討に関する研究	Kansai Geo-Symposium 2020
157	12月	吉田秀典	廃シロップ添加によるセメント改良土の強度向上に関する研究	第12回地盤改良シンポジウム
158	12月	吉田秀典	Study on Removal of Cesium from Contaminated Soil by Electrophoresis using Potassium Acetate as Electrolyte	SEE 2020
159	12月	吉田秀典	Study on Adsorption of Heavy Metals by Rice Husk and Extraction of Heavy Metals Adsorbed in Rice Husk	SEE 2020
160	12月	吉田秀典	深層学習に基づく土砂災害およびため池災害の規模の推定に関する基礎的研究	計算数理工学シンポジウム2020

研究、解説、論文（2020年度）①　　**（氏名五十音順）**

	日付	氏 名	内 容	依頼先等
1	令和2年 7月30日	石塚正秀	飛砂の測定、沙漠学事典、日本沙漠学会編纂	丸善出版
2	7月30日	石塚正秀	風速の測定、沙漠学事典、日本沙漠学会編纂	丸善出版
3	5月17日	Shao, Y., Jie Zhang, Masahide Ishizuka, Masao Mikami, John Leys, Ning Huang	Dependency of Particle Size Distribution at Dust Emission on Friction Velocity and Atmospheric Boundary-Layer Stability	Atmos. Chem. Phys. Discuss
4	9月18日	Kazuyuki Kita, Yasuhito Igarashi, Takeshi Kinase, Naho Hayashi, Masahide Ishizuka, Kouji Adachi, Motoo Koitabashi, Tsuyoshi Thomas Sekiyama, Yuichi Onda	Rain-induced bioecological resuspension of radiocaesium in a polluted forest in Japan	Scientific Reports 10(1)
5	11月5日	Shao, Y, Jie Zhang, Masahide Ishizuka, Masao Mikami, John Leys, Ning Huang	Dependency of particle size distribution at dust emission on friction velocity and atmospheric boundary-layer stability	Atmospheric Chemistry and Physics20(21) 12939 - 12953
6	11月	Tsuda M,Ishizuka M	Flexible reservoir flood control using a reverse routing method with a kinematic wave equation	Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser. B1 (Hydraulic Engineering) 76
7	11月	Okazaki Y, Okazaki S, Kajitani Y, Ishizuka M	Regression of imbalanced river discharge data using resampling technique	Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser. B1 (Hydraulic Engineering) 76
8	令和3年 1月21日	Shao, Y, Fraedrich, K, Ishizuka M	Modelling Soil Moisture in Hyper-Arid Conditions	Boundary-Layer Meteorology 207
9	令和2年 6月	磯打千雅子	地域で取り組む避難機能付き共同住宅「サツキPROJECT」	都市問題vol.111，39-45，june2020
10	令和2年	田中隆文・磯打千雅子ほか	土砂災害に備える観点からの地区防災計画事例の比較研究	地区防災計画学会誌19号
11	令和2年	磯打千雅子・槙原聡美・松本竜己	平成30年7月豪雨からの復興と地区防災計画活動―倉敷市真備町川辺地区の取り組み―	地区防災計画学会誌20号
12	令和2年 6月	黒田望、梶谷義雄、多々納裕一	浸水時における事業所資産のフラジリティ曲線の推計：平成30年7月豪雨を対象として	土木学会論文集B1（水工学）、Vol.76, No.1, pp.70-80, 2020.6.
13	8月	梶谷義雄、黒田望、多々納裕一	「令和元年台風19号及び台風21号による広域災害に関する総合研究」(研究代表者：二瓶泰雄)	10.4 産業・経済への影響、科学研究費助成事業(特別研究促進費)報告書、pp.379－386、2020.8
14	9月	Liu, H., Tatano, H. and Kajitani, Y.	Estimating lifeline resilience factors using post-disaster business recovery data	Earthquake Spectra, First Published September 9, 2020. https://doi.org/10.1177/8755293020952455, 2020.9.
15	9月	野本篤史、酒井久和、梶谷義雄	複数の地震災害記録の統計分析による道路盛土復旧予測モデルの構築	土木学会論文集A1 (構造・地震工学), Vol.76, No.4, pp.409-419, 2020.9.
16	11月	梶谷義雄、杉浦聡志、畑山満則、高木朗義	災害時の避難行動に対する態度形成と避難実態に関する要因分析：平成30年7月豪雨を対象として	自然災害科学、Vol.39、No.3、pp.207-220、2020.11.
17	11月	Yuriko Okazaki, Shinichiro Okazaki, Yoshio Kajitani, and Masahide Ishizuka	Regression of Imbalanced Inflow Data by Using Smoter Algorithm	Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser.B1 (Hydraulic Engineering), Vol.76, No.2, pp.I_133_138, 2020.11
18	11月	我部山喜弘、角野拓真、岡崎百合子、中村太郎、岡崎慎一郎、梶谷義雄、渡邊諭、佐溝昌彦	機械学習を援用した橋脚の洗堀被災リスク評価モデルの構築	土木学会論文集B1（水工学）、Vol.76, No.4, pp.I_601-606, 2020.11
19	令和2年	梶谷義雄	トルコ・ドゥズジェ市の地震被害とその後の復興	ESTRELA，No.319, pp.16-18,2020.
20	令和3年 2月	Hozumi, K., Sakai, H. and Kajitani, Y.	Risk Assessment of Landslide Disaster for Detecting Isolated Communities in Wakayama Prefecture After Nankai Trough Earthquake, In Advances in Sustainable Construction and Resource Management	(Hazarika, H., Madabhushi, G.S.P., Yasuhara, K., and Bergado, D.T. eds.), pp.705-716, 2021.2.
21	令和2年 5月	Takashi Tonegawa , Yusuke Yamashita,Tsutomu Takahashi, Masanao Shinohara, Yasushi Ishihara, Shuichi Kodaira, Yoshiyuki Kaneda	Spatial relationship between shallow very low frequency earthquakes and the subducted Kyushu-Palau Ridge in the Hyuga-nada region of the Nankai subduction zone	Gepphysical Journal International, Volume 222, Issue 3, September 2020
22	7月	笠井武志、野々村敦子、足立夏海、磯打千雅子、金田義行、今井健太郎	「消防職員を対象とした津波警報発表時の撤退時間を考慮した救命・救助活動計画策定に向けた訓練手法の開発」	自然民害科学J. JSNDS 39-1 53 64 (2020)
23	9月	V. A. Karpov, K. A. Sementsov, M. A. Nosov, S. V. Kolesov, H.Matsumoto, and Y. Kaneda	Method for Examining the Performance of Seafloor Observatory Sensors	MOSCOW UNIVERSITY PHYSICS BULLETIN, Vol. 75 No. 4 2020
24	令和3年 2月	Atsuko Nonomura, Shuichi Hasegawa, Tatsuya Abe, Sakae Mukoyama and Yoshiyuki Kaneda	Validation of an index for susceptibility to earthquake-induced landslides derived from helicopter-borne electromagnetic resistivity and digital elevation data	Geosicences 2021 Special Issue

研究、解説、論文（2020年度）②　　**（氏名五十音順）**

	日付	氏 名	内 容	依頼先等
25	令和2年	Masanobu Kii, Nopadon Kronprasert, Boonsong Satayopas	Estimation of transport demand using satellite image: case study of Chiang Mai	Thailand, International Journal of GEOMATE, Vol. 18, Issue 69, pp. 111-117,
26	令和2年	Masanobu Kii	Reductions in CO2 emissions from passenger cars under demography and technology scenarios in Japan by 2050	Sustainability, 12(17), 6919,
27	令和2年	Carlos Llorca, Catherine Silva, Nico Kuehnel, Ana Moreno, Qin Zhang, Masanobu Kii and Rolf Moeckel	Integration of land use and transport to reach Sustainable Development Goals: Will radical scenarios actually get us there?	Sustainability, 12(23), 9795,
28	令和3年	Masanobu Kii	Projecting future populations of urban agglomerations around the world and through the 21st century	Urban Sustainability, 1, 10
29	令和3年	紀伊雅敦	2050年までの市町村別乗用車CO?排出量の将来推計と要因分析	自動車技術，75(1), 82-87, 2021.
30	令和3年	末永慶寛	STUDY ON THE WAVE ENERGY ABSORPTION FUNCTION OF ARTIFICIAL REEFS IN THE IRREGULAR WAVES	Journal of Recent Advances in Marine Science and Technology, PACON International ,Vol.14, No.1, pp.21-31
31	令和3年	末永慶寛	香川方式ノリスカートによる養殖漁場への新施肥技術	日本水産学会誌，87(1), pp.23-30
32	令和2年	岩原廣彦、白木渡、井面仁志、高橋亨輔	地域コミュニティの崩壊要因が地域防災力に及ぼす影響についての一考察	土木学会論文集F6(安全問題), Vol.76，No.2，pp.I_97-I_105
33	令和2年	高橋亨輔、井面仁志、要田侑輝	グラフ理論に基づく香川県緊急輸送道路ネットワークの構造分析	木学会安全問題討論会'20，4頁
34	令和2年	井面仁志、高橋亨輔、石村海斗	複合現実を活用した地震時避難訓練に関する研究グラフ理論に基づく香川県緊急輸送道路ネットワークの構造分析	土木学会安全問題討論会'20，5頁
35	令和2年	豊田晃基、井面仁志、高橋亨輔	地震時初動対応における避難訓練システムの教職員間連携訓練シナリオの開発	第32回信頼性シンポジウム，2頁
36	令和2年	安達伸、井面仁志、高橋亨輔	避難訓練システムのための姿勢推定を用いた入力インタフェースに関する研究	第32回信頼性シンポジウム，4頁
37	令和2年	坂根早麿、高橋亨輔、井面仁志、白木渡	DIA支援システムを活用した南海トラフ地震における地域啓開計画策定に関する検討	第32回信頼性シンポジウム，4頁
38	令和2年	Kawata, Y., Takenouchi, K., and Yamori K.	Education for Disaster Risk Reduction in Hyogo towards hand down from generation to generation	Journal of Disaster Research, Vol.16, No.2，pp.244-249.
39	令和2年	中居楓子、中村晋一郎、竹之内健介	事前の防災活動による避難の促進：令和元年東日本台風千曲川決壊における長野市の事例	土木学会誌S2（令和元年風水害報告特別企画），Vol.76, No.1, pp.424-436.
40	令和2年	Takenouchi, K., Yamori, K.	Synergistic Integration of Detailed Meteorological and Community Information for Evacuation from Weather Related Disasters: Proposal of a “Disaster Response Switch”	the International Journal of Disaster Risk Science, Vol.11, No.6, pp.762-775
41	令和2年	竹之内健介、細野将輝	授業の実施方法を考慮した水害教育の検討	土木学会論文集F6(安全問題), 第76巻, 2号，pp.I_63-I-74.
42	令和2年	田中耕司、竹之内健介、向井凌平、西澤諒亮、玉木秀幸	地域のタイムライン防災を軸とした生活防災の取り組みとその効果, 土木学会論文集F6(安全問題), Vol.76, No.2	土木学会論文集F6(安全問題), Vol.76, No.2, pp.I_141-I_154.
43	令和2年	三浦大貴，玉置哲也，紀伊 雅敦, 梶谷義雄	「交通資本による CO2 排出と 生産に関する効率性分析」	土木計画学研究発表会(秋大会)
44	令和3年2月	玉置哲也	「多様性万歳！島国で生きる」	2021年2月号土木学会誌特集,pp.8-9
45	令和2年	Murata, F., T. Terao, K. Chakravarty, H. J. Syiemlieh, and L. Cajee	Characteristics of orographic rain drop-size distribution at Cherrapunji	Northeast India. Atmosphere, 11, 777.
46	令和2年4月2日	Atsuko Nonomura, Kazuhito Fujisawa, Mari Takahashi, Hideo Matsumoto, Shuichi Hasegawa	Analysis of the Actions and Motivations of a Community during the 2017 Torrential Rains in Northern Kyushu, Japan	International Journal of Environmental Research and Public Health 17(7) 2424
47	5月8日	Shrijan Bahadur Malla, Ranjan Kumar Dahal, Shuichi Hasegawa	Analyzing the disaster response competency of the local government official and the elected representative in Nepal	Geoenvironmental Disasters, Vol 7 (15)，pp.1-13
48	6月6日	Shrijan Bahadur Malla, Ranjan Kumar Dahal, Shuichi Hasegawa	Local Level Disaster Response Effectiveness in Nepal: Recent(31 March) Tornado as a Case Study，Lowland Technology International, Special Issue on	Engineering Geology and Geotechniques for Developing Countries, Vol 22 (1), pp.137- 146
49	8月	長谷川修一	日本応用地質学会におけるアウトリーチの現状と課題	応用地質，61(3)，92-97

研究、解説、論文（2020年度）③　　**（氏名五十音順）**

	日付	氏 名	内 容	依頼先等
50	9月26日	長谷川修一	ジオパーク×防災 資料集，26p	香川大学創造工学部
51	12月5日	Reina Nakaoka, Soko Kado, Shuichi Hasegawa, Keiko Suzuki-Kamata, Osamu Ishizuka, Shun Sekimoto, Hiroshi Kawabata, Yoshiyuki Tatsumi	Teshima pyroclastics: Onset of characteristic Setouchi magmatism induced by slab melting at 14.8 Ma	Island Arc Volume 30
52	12月	Shrijan Bahadur Malla, Ranjan Kumar Dahal, Shuichi Hasegawa	Local level Disaster Response in Nepal: Investigating the Government Agencies,Bulletin of Department of Geology	Tribhuvan University, Kathmandu,Nepal,Vol.22,pp.17－23
53	令和3年3月11日	長谷川修一	東日本大震災から10年「」サヌカイトフォーン演奏によるレクエイム」と「巽好幸先生が語るサヌカイト」資料集，19p	香川大学創造工学部・四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構
54	3月	長谷川修一・鶴田聖子	香川大学公開講座「讃岐ジオガイド養成講座」と「ジオガイドが案内する讃岐ジオサイト探訪」の連携活動報告	香川大学生涯学習研究センター研究報告、26、17-37
55	令和2年7月	藤田 茂, 平尾 智広, 北澤 健文, 飯田 修平, 永井 庸次, 嶋森 好子, 鮎澤 純子, 瀬戸 加奈子, 畠山 洋輔, 大西 遼, 松本 邦愛, 長谷川 友紀	コメディカルの労働量が医療安全へ及ぼす影響：システマティックレビュー	日本医療・病院管理学会誌 57(573) 95 - 104
56	9月	Yosuke Hatakeyama, Shigeru Fujita, Shuhei Iida, Yoji Nagai, Yoshiko Shimamori, Junko Ayuzawa, Tomohiro Hirao, Ryo Onishi, Kanako Seto, Kunichika Matsumoto, Tomonori Hasegawa	Prioritization of patient safety health policies: Delphi survey using patient safety experts in Japan	Plos one 10.1371/journal.pone.0239179
57	9月	藤田 茂, 平尾智広, 北澤健文, 飯田修平, 永井庸次, 嶋森好子, 鮎澤純子, 瀬戸加奈子, 畠山洋輔, 松本邦愛, 長谷川友紀	医師の労働量が医療安全へ及ぼす影響－システマティックレビュー	日本医療マネジメント学会雑誌 21(2) 58 - 65
58	12月	Nzaji Michel-Kabamba, Nlandu Roger Ngatu, Ngombe Leon-Kabamba, Astrid Katumbo-Mukemo, Olivier Mukuku, Jean Ngoyi-Mukonkole, Guillaume Ngoie-Mwamba, Elie Kilolo-Ngoie, Ignace Bwana-Kangulu, Dora Kafusthi-Mukemo, Deca Blood, Banza-Ndala, Denis Kabila-Mutombo, Marie-Claire Balela-Kabasu, Moise Kanyiki-Katala, Al Hassan Syed-Mahfuz, Akitsu Murakami, Kanae Kanda, Yukinori Mashima, Numbi Oscar-Luboya, Tomohiro Hirao	Occupational COVID-19 Prevention among Congolese Healthcare Workers: Knowledge, Practices, PPE Compliance, and Safety Imperatives	Tropical Medicine and Infectious Disease 6(1) 6 - 6 2020年12月30日
59	令和3年1月	Syed Mahfuz Al Hasan, Jennifer Saulam, Kanae Kanda, Nlandu Roger Ngatu, Tomohiro Hirao	Trends in COVID-19 Outbreak in Tokyo and Osaka from January 25 to May 6, 2020: a Joinpoint Regression Analysis of the Outbreak Data	Japanese Journal of Infectious Diseases 74(1) 73 - 75
60	令和2年4月	Atsuko Nonomura,Kazuhito Fujisawa,Mari Takahashi,Hideo Matsumoto,Shuichi Hasegawa	Analysis of the actions and motivations of a community during the 2017 torrential rains in northern kyushu, Japan	International Journal of Environmental Research and Public Health;17(7)
61	令和2年	本山紘希、飯山かほり、金田義行、白木渡、藤澤一仁、堀 宗朗	都市の地震動シミュレーションのための地盤モデルの堅牢な構築手法と適用	土木学会論文集Ａ２(応用力学)；76(2) I_543 - I_552
62	令和2年	桝本みな、野々村敦子、長谷川修一、藤澤一仁、山之口勤、田殿武雄	干渉SAR解析を用いた平成30年7月豪雨による香川県の斜面変状箇所推定	日本リモートセンシング学会誌 40(2)
63	令和2年9月	松尾裕治、村上仁士、松本秀應	「嘉永7年伊賀上野地震に伴う満濃池決壊」	第37回歴史地震研究会(オンライン伊賀大会)
64	令和2年6月30日	安井敏晃	健康増進型保険が保険事業に与える影響について	日本保険学会誌『保険学雑誌』第649号,pp.197-216.
65	令和2年6月	Keiichiro Shibata, Hidenori Yoshida, Hiroki Yokoyama, Shinichiro Okazaki and Matsumoto Naomichi	Study on Elution Reduction of Hexavalent Chromium from Recycled Base Course Material using Waste Syrup	International Journal of GEOMATE, Vol.18, Issue 70, pp.149 - 154,
66	6月	Keiichiro Shibata, Hidenori Yoshida, Shota Nishioka, Naomichi Matsumoto and Ayane Yanaka	Study on Extraction from Cesium in Contaminated Soil Packed in Flexible Container Bag and Adsorption using Rice Husk	International Journal of GEOMATE, No.18, Issue 70 pp.203- 208
67	7月	Okazaki, S, Okuma, C, Kurumatani, M, Yoshida, H, Matsushima, M	Predicting the Width of Corrosion-Induced Cracks in Reinforced Concrete Using a Damage Model Based on Fracture Mechanics	Applied Sciences 10(5272)
68	12月	山谷健介，柴田慶一郎，松本直通，岡崎慎一郎，吉田秀典	廃シロップ添加によるセメント改良土の強度向上に関する研究	地盤改良シンポジウム論文集，Vol.14，pp.239 - 244
69	12月	和田光真，久保栞，吉田秀典	深層学習に基づく土砂災害およびため池災害の規模の推定に関する基礎的研究	計算数理工学論文集，Vol.20，pp.137 - 145
70	12月	久保栞，吉田秀典，市村強，M.L.L.Wijerathne，堀 宗朗	浸水域の事前認知が避難行動に与える影響に関する研究	土木学会論文集A2（応用力学），76(2)，pp.I_499 - I_510
71	12月	和田光真，久保栞，吉田秀典	洪水解析に基づくため池周辺の家屋被害の推定	土木学会論文集A2（応用力学），76(2)，pp.I_577 - I_585
72	令和3年2月	Shinichiro Okazaki, Hiroma Iwase, Hiroyuki Nakagawa, Hidenori Yoshida and Ryosuke Hinei	Effect of Moisture Distribution on Velocity and Waveform of Ultrasonic-Wave Propagation in Mortar	Materials, 14(4), Pape Number790
73	3月	Ayane Yanaka, Keiichiro Shibata, Naomichi Matsumoto and Hidenori Yoshida	Study on Adsorption of Heavy Metals by Rice Husk and Extraction of Heavy Metals Adsorbed in Rice Husk	International Journal of, GEOMATE, Vol.20, Issue 79, pp.28 – 33

受賞学術賞（2020年度）　　**（氏名五十音順）**

	氏 名	内 容
1	磯打千雅子	地区防災計画論文賞
2	磯打千雅子	防災まちづくり大賞 消防庁長官賞
3	梶谷義雄	The Sir Richard Stone Prize (International Input-Output Association)
4	末永慶寛	日本大学理工学部学術・協会賞
5	長谷川修一	表彰状、一般社団法人日本建設機械施工協会、令和2年5月21日、建設機械建設施工の発展に寄与

２.運営、管理

四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構会議

開催日	内　容
令和3年3月22日	第2年度 機構会議

四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構運営会議

開催日	内　容
令和2年6月29日	第1回 機構運営会議
令和2年10月2日	第2回 機構運営会議（メール審議）
令和3年3月2日	第3回 機構運営会議（メール審議）

３.規定

香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構規程

（趣旨）

第１条　この規程は、国立大学法人香川大学組織規則第 17 条の 2 第 2 項の規定に基づき、香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構（以下「機構」という。）に関し必要な事項を定める。

（目的）

第２条　機構は、香川大学（以下「本学」という。）が、防災・減災・危機管理に資する教育研究拠点、地域強靱化支援機能の強化・充実及び教育研究成果のアジア・諸外国への普及のための国際拠点形成を推進することを目的とする。

（機構の構成）

第３条　機構は、前条の目的を達成するために、次の各号に掲げる下部組織（以下「センター等」という。）を置き統括する。

(1) 危機管理先端教育研究センター

(2) 地域強靱化研究センター

(3) 企画調整室

２　センター等の業務に関し必要な事項は、別に定める。

（業務）

第４条　機構は、次に掲げる業務を実施する。

(1) 危機管理先端教育研究センター及び地域強靱化研究センターの運用

(2) 地域特性に基づく減災・危機管理教育研究拠点の形成

(3) 地域強靱化に資する防災・減災・危機管理推進拠点の形成

(4) 防災・危機管理教育プログラムの開発と普及拠点の形成

①　防災・危機管理統一教育プログラムの開発と普及拠点の形成

②　防災・危機管理専門家養成特別プログラムの四国・全国への普及、アジア並びに諸外国への普及

③　災害・危機管理対応マネージャー等資格授与機関の設置・運用

（職員）

第５条　機構に、次の各号に掲げる職員を置く。

(1) 機構長

(2) 副機構長　２人（第３条第１項第１号及び第２号の教員　各１人)

(3) 機構担当教員

(4) 併任教員

(5) 研究員

(6) その他必要な職員

（機構長）

第６条　機構長は、学長が指名する理事又は副学長をもって充てる。

２　機構長は機構の業務を掌理する。

（副機構長）

第７条　副機構長は、危機管理先端教育研究センターの機構担当教員から１名、地域強靱化研究センターの機構担当教員から１名を機構長が任命する。

２　副機構長は、機構長を補佐し、機構長に事故があるときは、機構長から指名を受けた副機構長がその職務を代理する。

３　副機構長の任期は2年とし、再任することができる。ただし、副機構長の任期の末日は、当該副機構長を任命する機構長の任期の末日とする。

４　前項の規定にかかわらず、副機構長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（機構担当教員）
第８条　機構担当教員は、学長が選考し任命する。
２　機構担当教員は第3条第1項の各号に規定するセンター等を担当し、当該センター等の業務を処理する。
（併任教員）
第９条　併任教員は、本学専任教員で防災・減災・危機管理の教育研究推進に関し専門的知識及び経験を有する者のうち、機構長の推薦に基づき、学長が任命する。
２　併任教員は第3条第1項の各号に規定するセンター等を担当し、当該センター等の業務を処理する。
（研究員）
第10条　研究員は次の各号に掲げる者の中から機構長が任命又は委嘱する。
(1)　機構研究に関する共同研究を行っている国内外の研究員
(2)　その他機構長が必要と認めた者
２　研究員は第3条第1項の各号に規定するセンター等の研究を行う。
（客員教授等）
第11条　機構に、客員教授及び客員准教授（以下「客員教授等」という。）を置くことができる。
２　前項の客員教授等の称号の付与は、機構長の申出に基づき、学長が行う。
３　客員教授等の称号の付与期間は、1年以内とし、再任することができる。
４　客員教授等は第5条第5号に規定する者を兼ねることができる。
（顧問）
第12条　機構に、顧問を置くことができる。
２ 顧問は、機構の運営に関し助言を行うことができる。
３ 顧問は、機構の運営に関し卓越した識見を有する有識者のうちから、機構長の推薦により、学長が委嘱する。
４ 顧問の任期は、２年以内とし再任することができる。ただし、顧問の任期の末日は当該顧問を推薦する機構長の任期の末日とする。
（機構会議）
第13条　機構の運営に関し助言・提言を得ることを目的として、香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構会議（以下「機構会議」という。）を置く。
２　機構会議に関し必要な事項は、別に定める。
（機構運営会議）
第14条　機構の運営に関し必要な事項等を審議するため、香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構運営会議（以下「機構運営会議」という。）を置く。
２　機構運営会議に関し必要な事項は、別に定める。
（事務）
第15条　機構に関する事務は、機構が関係する学部事務部の協力を得て、学術・地域連携推進室研究協力グループにおいて処理する。
（雑則）
第16条　この規程に定めるもののほか、機構に関し必要な事項は、別に定める。

附　則
１　この規程は、平成28年4月1日から施行する。
２　この規程の施行により、香川大学危機管理研究センター規程（平成20年4月1日制定）は、廃止する。
附 則
この規程は、令和元年11月11日から施行する。

IECMS

Institute of Education,
Research and Regional Cooperation
for Crisis Management Shikoku

香川大学 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構

【幸町キャンパス】 〒760-8521 香川県高松市幸町1番1号　TEL : 087-832-1656　FAX : 087-832-1668
【林町キャンパス】 〒761-0396 香川県高松市林町2217-20　TEL : 087-864-2544　FAX : 087-864-2549　E-mail : kikikanri@jim.ao.kagawa-u.ac.jp
URL:http://www.kagawa-u.ac.jp/iecms/

2021.10月発行